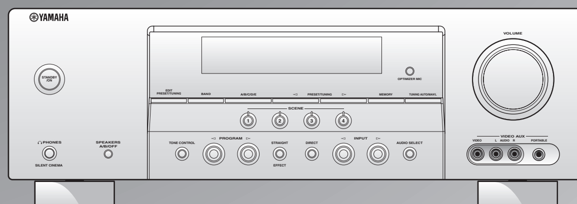
YAMAHA

DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX463



スタートアップガイド

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にスタートアップガイドと取扱説明書、保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

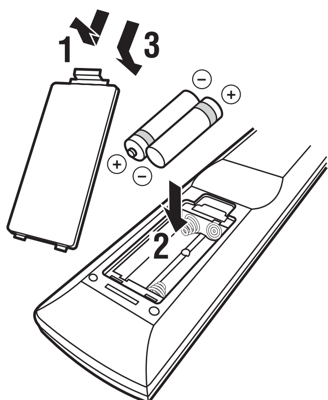
もくじ

「ⒶSPEAKERS」や「④DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または「取扱説明書」78 ～ 79 ページをご覧ください。

取扱説明書　もくじ

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる



1 リモコンの電池カバーのタブを押しながら、カバーをリモコンから取りはずす。

2 付属の単４乾電池（２本）を、リモコンの電池ケースに入れる。

電池のプラス（＋）、マイナス（−）極性の向きを正しく入れてください。

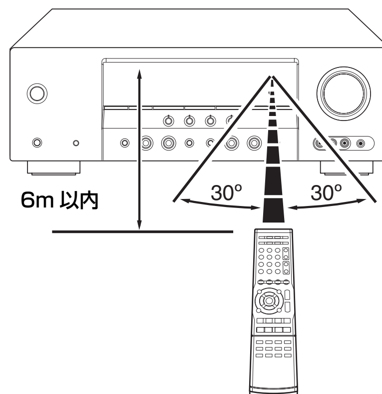
3 電池カバーをリモコンに装着する。

ご注意

・リモコンで操作しにくくなった場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
・新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れたりすることがあります。
・種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがありますのでご注意ください。
・使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
・使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
・乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
・乾電池を外したまましばらく（2 分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定しなおしてください。

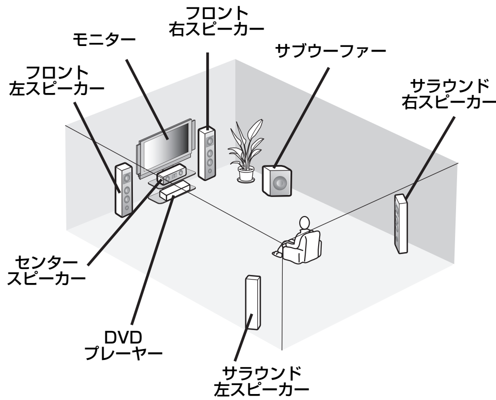
■ リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。詳しくは「取扱説明書」23 ページをご覧ください。



接続から再生までの手順

DVD を最も簡単に再生する方法を説明します。



ステップ１：
スピーカーを設置・接続する

☞ 5 ページ

ステップ２：
DVD プレーヤーや他の外部機器を接続する

☞ 6 ページ

ステップ３：
SCENE1 キーを押す

☞ 7 ページ

再生スタート！

接続に必要なものを確認する

下記のものをご用意ください。

- ❏ スピーカー
  - ❏ フロントスピーカー x2
  - ❏ センタースピーカー x1
  - ❏ サラウンドスピーカー x2

  スピーカーは防磁型をお使いください。また、少なくとも２本（フロント用）以上のスピーカーをご用意ください。フロント用以外のスピーカーは、以下の順番で優先的にご用意ください。
  1．サラウンドスピーカー（２本）
  2．センタースピーカー（１本）

- ❏ アンプ内蔵サブウーファー x1
  ピン端子を装備したアンプ内蔵サブウーファーをご用意ください。

- ❏ スピーカーケーブル x5
- ❏ サブウーファー用ピンケーブル x1
  RCA ケーブルをご用意ください。

- ❏ DVD プレーヤー x1
  光デジタル出力端子およびコンポジットビデオ出力端子を装備した DVD プレーヤーをご用意ください。

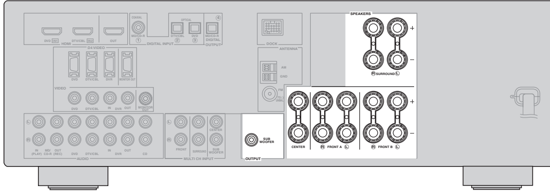
- ❏ モニター x1
  コンポジットビデオ端子を装備したテレビまたはモニター、プロジェクターをご用意ください。

- ❏ ビデオ用ピンケーブル x2
  RCA ケーブルをご用意ください。

- ❏ 光ファイバーケーブル x1

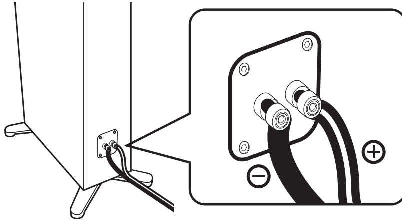
ステップ1：
スピーカーを設置・接続する

スピーカーをお部屋に設置し、本機に接続します。



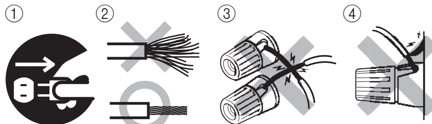
1 スピーカーとサブウーファーをお部屋に設置する。

2 スピーカーケーブルをスピーカーに接続する。



左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「+」（プラス、赤）、「−」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。一般的にスピーカーケーブルは、平行した２本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの１本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。

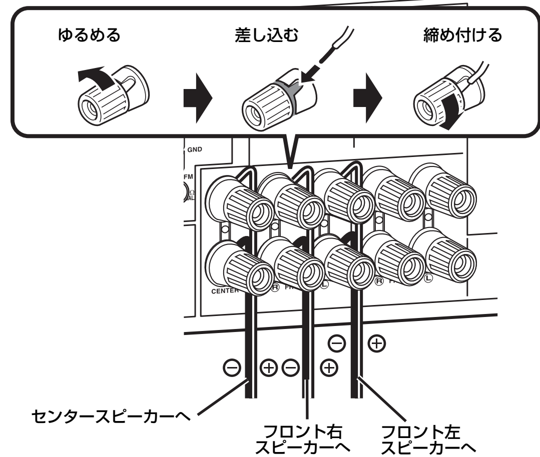
3 スピーカーケーブルを本機のスピーカー端子に接続する。



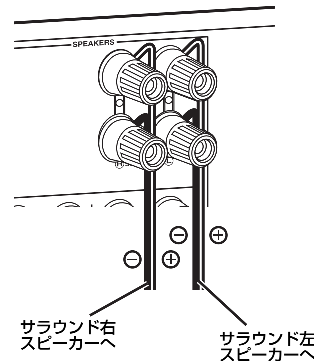
① スピーカーを接続する前に、本機とサブウーファーの電源コードがコンセントに接続されていないことを確認する。
② ショートしないように芯線をしっかりとよじる。
③ スピーカーケーブルの芯線どうしが接触しないようにする。
④ スピーカーケーブルの芯線が本機の金属部に触れないようにする。

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「+」（プラス、赤）、「−」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。

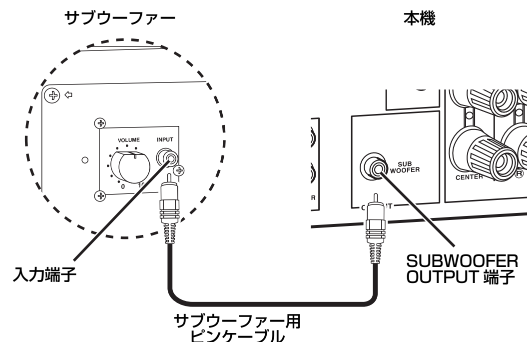
フロント／センタースピーカーの接続



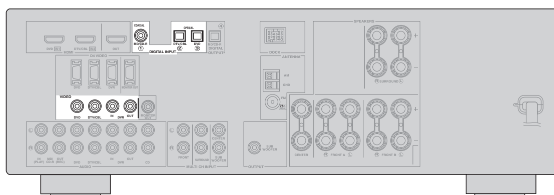
サラウンドスピーカーの接続



4 サブウーファー用ピンケーブルを本機のSUBWOOFER OUTPUT 端子、およびサブウーファーの入力端子に接続する。



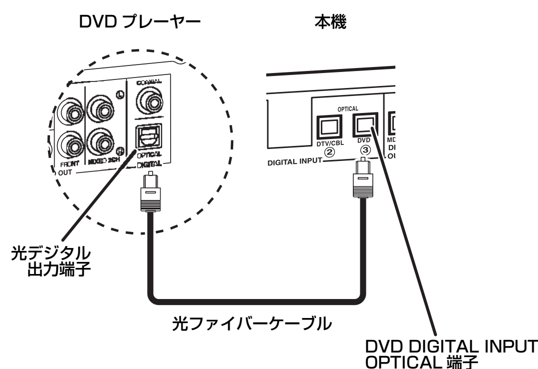
ステップ２：DVD プレーヤーや他の外部機器を接続する



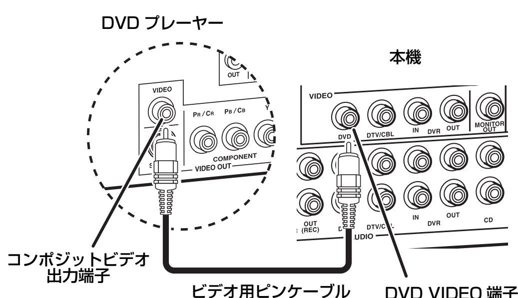


本機および DVD プレーヤーがコンセントに接続されていないことをご確認ください。

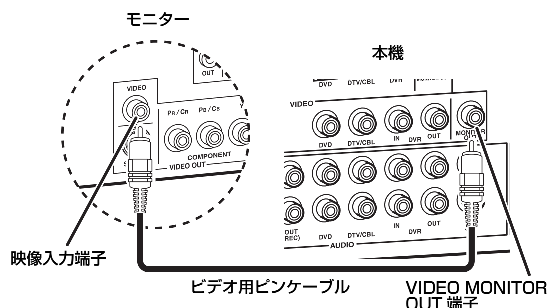
1 DVD プレーヤーの光デジタル（OPTICAL）出力端子と本機の DVD DIGITAL INPUT OPTICAL 端子を光ファイバーケーブルで接続する。



2 DVD プレーヤーのコンポジットビデオ出力端子と本機の DVD VIDEO 端子をビデオ用ピンケーブルで接続する。



3 モニターの映像入力端子と本機の VIDEO MONITOR OUT 端子をビデオ用ピンケーブルで接続する。



4 本機や他の外部機器の電源プラグをコンセントに接続する。

■ その他の接続について

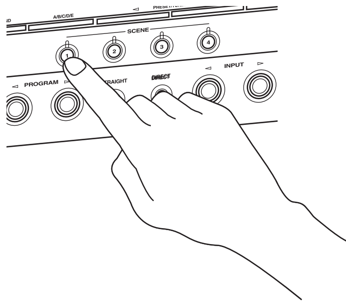
- スピーカーシステムについてもっと知りたい ☞「取扱説明書」9 ページ
- ビデオ用ピンケーブル以外のケーブルでモニターを接続したい ☞「取扱説明書」15 ページ
- ビデオ用ピンケーブルや光ファイバーケーブル以外のケーブルで DVD プレーヤーを接続したい ☞「取扱説明書」16 ページ
- DVD レコーダーやビデオデッキを接続したい ☞「取扱説明書」17 ページ
- 衛星放送／ケーブルテレビチューナーを接続したい ☞「取扱説明書」17 ページ
- CD プレーヤーや MD レコーダーを接続したい ☞「取扱説明書」18 ページ
- DVD プレーヤーをアナログマルチチャンネル接続したい ☞「取扱説明書」18 ページ
- ヤマハ製 iPod 用ドック／ Bluetooth アダプターを接続したい ☞「取扱説明書」19 ページ
- VIDEO AUX 端子を使いたい ☞「取扱説明書」19 ページ
- FM ／ AM アンテナを接続したい ☞「取扱説明書」20 ページ

ステップ3：SCENE 1キーを押す

1 本機と接続したモニターの電源をオンにする。

2 フロントパネルの ⓒSCENE1 キーを押す。

フロントパネルディスプレイに「DVD Movie Viewing」と表示され、DVD の視聴に適したプログラムが呼び出されます。

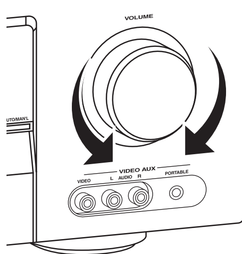




SCENE 機能がオンのときは、選んだ SCENE に対応するフロントパネル SCENE キー上部のランプが点灯します。

3 DVD プレーヤーで DVD を再生する。

4 ⓙVOLUME コントロールを回して、音量を調節する。



ご注意

入力ソースや音場プログラムを変更すると SCENE 機能はキャンセルされ、フロントパネル ⓒSCENE キー上部のランプが消灯します。

■ SCENE 機能とは

SCENE キーを押すだけで本機の電源がオンに切り替わり、SCENE キーに記憶された SCENE テンプレートに設定されている入力ソースや再生モードを呼び出す機能です。SCENE テンプレートは、入力ソースと再生モードの組み合わせた雛形のことです。

SCENE キーの初期設定	SCENE テンプレート名と内容
SCENE 1	DVD Movie Viewing – 入力ソース：DVD – 再生モード：Movie Dramatic DVD プレーヤーで映画ソフトを見るときに選びます。
SCENE 2	Music Disc Listening – 入力ソース：DVD – 再生モード：2ch Stereo DVD プレーヤーで CD を 2 チャンネルで聴くときに選びます。
SCENE 3	TV Viewing *1 – 入力ソース：DTV/CBL – 再生モード：Straight テレビを見るときに選びます。
SCENE 4	Radio Listening *2, *3, *4 – 入力ソース：TUNER – 再生モード：5ch Enhancer FM/AM 放送を聴くときに選びます。

ご注意

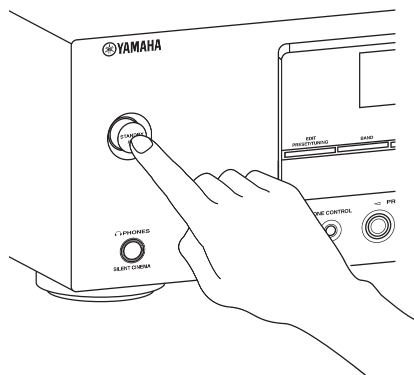
*1 テレビを本機に接続してから操作してください。テレビの接続については「取扱説明書」15 ページをご覧ください。
*2 FM ／ AM アンテナを本機に接続してから操作してください。FM ／ AM アンテナの接続については「取扱説明書」20 ページをご覧ください。
*3 聴きたい放送局を受信してから操作してください。FM ／ AM 放送の受信については「取扱説明書」39 ページをご覧ください。
*4 FM ／ AM 放送をより良好に受信するには、FM アンテナ先端の位置や AM アンテナの向きを調節してください。



お好みに合ったシーンが見つからない場合、本機に保存されている SCENE テンプレートの中からお好みにあったものと入れ替えたり、新しくテンプレートを作成したりすることができます。詳しくは「取扱説明書」24 ページをご覧ください。

■ 使い終わったら

ⒶSTANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする



本機の電源がスタンバイになります。リモコンからの赤外線信号を受信するため、少量の電力を消費します。電源をスタンバイからオンにするには、いずれかの ⓞSCENE キー（または ⑤SCENE キー）を押すか、フロントパネルの ⒶSTANDBY/ON キー（またはリモコンの ⑰POWER キー）を押してください。詳しくは「取扱説明書」21 ページをご覧ください。

こんなことをしたいときは

■ SCENE テンプレートを編集したい

- SCENE テンプレートを入れ替える
  ☞「取扱説明書」24 ページ
- 新しい SCENE テンプレートを作成する
  ☞「取扱説明書」27 ページ

■ さまざまな入力ソースを楽しみたい

- 基本的な操作
  ☞「取扱説明書」29 ページ
- FM ／ AM 放送を楽しむ
  ☞「取扱説明書」39 ページ
- 本機で iPod を再生する
  ☞「取扱説明書」42 ページ
- 本機で Bluetooth 機器を再生する
  ☞「取扱説明書」44 ページ

■ さまざまな音声効果を楽しみたい

- 音場プログラムを楽しむ
  ☞「取扱説明書」34 ページ
- ダイレクトモードで高品質音声を楽しむ
  ☞「取扱説明書」37 ページ
- 音場プログラムをカスタマイズする
  ☞「取扱説明書」36 ページ

■ 本機のパラメーターを調節したい

- リスニングルームにあわせてスピーカーのパラメーターを自動的に調節する（AUTO SETUP）
  ☞ 9 ページ
- さまざまなパラメーターを手動で調節する
  ☞「取扱説明書」46 ページ
- リモコンを設定する
  ☞「取扱説明書」59 ページ
- アドバンストセットアップメニューを設定する
  ☞「取扱説明書」62 ページ

■ その他の機能を使いたい

本機の電源を自動的にスタンバイにする
☞「取扱説明書」33 ページ

最適な視聴空間を自動的に設定する（YPAO）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定できます。スピーカーからテストトーンを出力し、付属のオプティマイザーマイクで測定します。

AUTO SETUP で設定する

ご注意

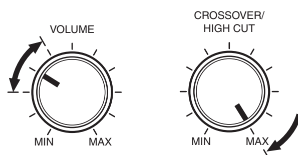
- 測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。小さなお子様などがリスニングルームに入らないようご配慮ください。
- 最適な測定を行うため、測定中はお部屋の環境をできるだけ静かに保つようにしてください。物音などが聞こえると、正確な測定結果が得られない場合があります。



- AUTO SETUP は、モニターに表示されるメニューと、フロントパネルディスプレイに表示されるメニューのどちらでも操作できます。本書では、モニターに表示されるメニューを使って説明します。
- AUTO SETUP では、FRONT A 端子に接続したスピーカーをフロントチャンネルの測定用として使います。

1 **AUTO SETUP の測定を始める前に、以下の事項をご確認ください。**

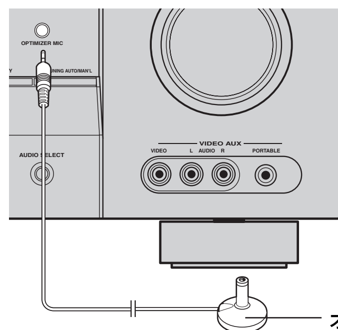
❑ すべてのスピーカー、およびサブウーファーが正しく接続されているか
❑ ヘッドホンが取り外されているか
❑ 本機とモニターの電源がオンになっているか
❑ モニターの映像入力が本機の映像に切り替わっている
❑ サブウーファーの電源がオンで、音量が約半分（または半分よりやや小さめ）に設定されているか
❑ サブウーファーのクロスオーバー周波数が最大に設定されているか



サブウーファー

❑ リスニングルームや周囲の環境ができるだけ静かに保たれているか

2 **フロントパネルの Ⓗ OPTIMIZER MIC 端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。**



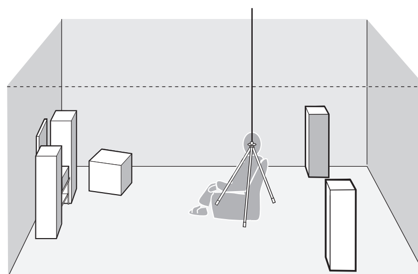
オプティマイザーマイク

モニターに以下の画面が表示されます。



3 **オプティマイザーマイクを視聴位置（リスニングポジション）に、ヘッド部を上に向けて耳と同じ高さに置く。**

オプティマイザーマイク





耳と同じ高さに設置するために三脚などを使うことをおすすめします。その場合は、三脚に付属しているネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

4 「SETUP」の設定が「AUTO」になっていることを確認する。



以下の選択項目から AUTO SETUP の方法を選ぶことができます。⑦△ キーを押して 「SETUP」を選んだ後、⑦◁ / ▷ キーを押して選択項目を決定し、「START」を選びます。

選択項目：**AUTO**、RELOAD、UNDO、DEFAULT

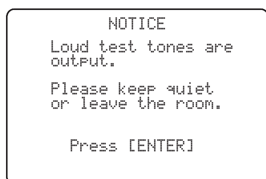
- 「AUTO SETUP」を実施するには、「AUTO」を選んでください。
- 前回実施した AUTO SETUP の設定値に戻すには、「RELOAD」を選んでください。
- 最新の AUTO SETUP の設定値を無効にし、MANUAL SETUP の設定値に戻すときは、「UNDO」を選んでください。MANUAL SETUP を設定していない場合は、前回実施した AUTO SETUP の設定値に戻します。
- 工場出荷状態に戻すには、「DEFAULT」を選んでください。

ご注意

- 「RELOAD」、および「UNDO」は、以前「AUTO SETUP」を実施し、測定した結果を適用したことがある場合にのみ選べます。

5 ⑦▽ キーを押して「START」を選び、⑦**ENTER** キーを押す。

以下の画面がモニターに表示されます。

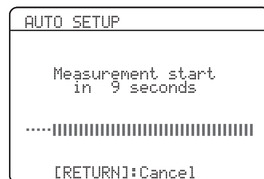


6 測定を妨げない位置に移動する。

より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動したうえ、物音などを立てないようにするか、リスニングルームの外で待機することをおすすめします。
次の手順を操作すると、AUTO SETUP の測定が始まります。

7 ⑦ ENTER キーを押し、測定を開始する。

以下の画面がモニターに表示され、約 10 秒後に AUTO SETUP の測定を開始します。



測定中は大きな音量でテストトーンが出力されます。測定が終わると、テレビに「RESULT」（結果）画面が表示されます。

ご注意

- AUTO SETUP の測定中は、本機を操作しないでください。
- 測定中はお部屋の外で待機することをおすすめします。測定には約 3 分かかります。

以下の項目を測定します。

結線／音量レベルの確認 WIRING/LEVEL

スピーカーの接続状態や極性をチェックします。また、スピーカーの音量レベルをチェックします。

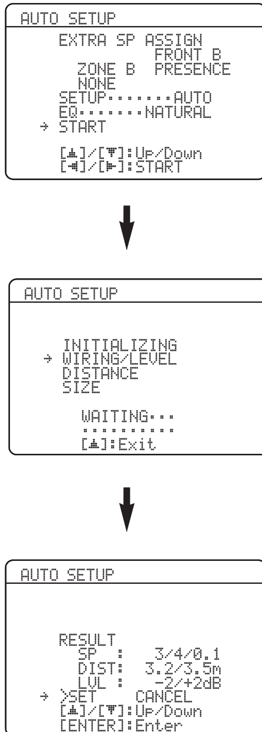
距離の補正 DISTANCE

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を測定し、各チャンネルの出力タイミングを補正します。

大きさ判定 SIZE

スピーカーの周波数特性をチェックし、各チャンネルに合ったクロスオーバー周波数を設定します。

テレビ画面表示は、以下のように変わります。



「RESULT」画面に表示される項目は以下の通りです。

スピーカーの数　SP

本機に接続されているスピーカーの数を、以下の順で表示します。
フロント、センターの合計／サラウンドの合計／サブウーファー

スピーカーの距離　DIST

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。
最も近いスピーカーまでの距離／ 最も遠いスピーカーまでの距離

スピーカーの音量　LVL

スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。
最も低い音量レベル／最も高い音量レベル

ご注意

- 測定中に「E-9:INTERNAL ERROR」と表示された場合は、手順４から操作し直してください。
- 手順４で「RELOAD」を選んだ場合、テストトーンは出力されません。
- 「AUTO SETUP」の実施中にエラーが起こった場合、測定はキャンセルされ、エラー内容が表示されます。詳しくは、「エラーメッセージが表示される場合」（12 ページ）をご覧ください。
- 測定中に問題が発生した場合は、「RESULT」の上に「WARNING」と、警告の番号が表示されます（13 ページ）。

8 **⑦△キーを押してから⑦ENTERキーを押して、結果の詳細を確認する。**

9 **⑦◁ / ▷ キーを繰り返し押して、結果の表示内容を切り替える。**



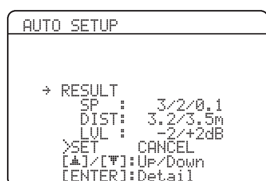


手動で視聴環境を設定したい場合や、AUTO SETUP での設定値を変更したい場合は、MANUAL SETUP を実施してください（「取扱説明書」46 ページ）。

ご注意

「DISTANCE」の測定結果は、お使いのサブウーファーの特性により、実際よりも長い距離が表示される場合があります。

10 **⑦ENTER キーを押して、結果表示の初期画面に戻る。**



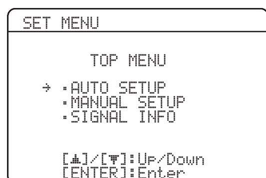
11 **⑦◁ / ▷ キーを押して「SET」、または「CANCEL」を選ぶ。**

選択項目：**SET**、CANCEL

- AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用する場合は、「SET」を選んでください。
- AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用しない場合は、「CANCEL」を選んでください。

12 **⑦ENTER キーを押して、選んだ項目を決定する。**

SET MENU の初期画面に戻ります。



13 **㉓MENU キーを押して、SET MENU から抜ける。**

14 **オプティマイザーマイクを本機から取りはずす。**

オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や AV 機器の上など、高温になる場所には置かないでください。

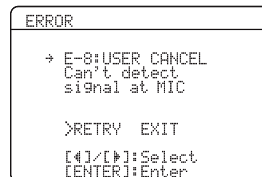


スピーカーやスピーカーの位置、スピーカーの数を変更した場合は、AUTO SETUP を再度実施してください。

■ エラーメッセージが表示される場合

⑦△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押して「RETRY」または「EXIT」を選び、⑦ENTER キーを押す。

下記は「E-8:USER CANCEL」の表示例です。



選択項目：**RETRY**、EXIT

- AUTO SETUP をもう一度実施するには、「RETRY」を選んでください。
- AUTO SETUP を終了する場合は、「EXIT」を選んでください。



- エラーメッセージについて詳しくは、「故障かな？と思ったら」の「AUTO SETUP」編をご覧ください（「取扱説明書」69 ページ）。

■ 警告メッセージが表示される場合

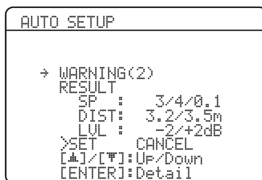
測定中に問題が発生した場合は、「WARNING」が結果表示画面に表示されます。警告内容を確認し、問題を解決してください。

ご注意

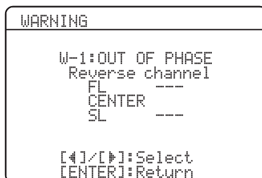
警告メッセージ内の「ERROR」では、AUTO SETUP の測定はキャンセルされません。

1 「WARNING」の左側に「→」（矢印）が表示されていることを確認し、⑦ENTER キーを押して、警告内容の詳細を確認する。

「WARNING」の右側に表示されている数字は、警告内容の数を表します。



2 ⑦◁ / ▷ キーを繰り返し押して、警告画面を切り替える。





- 警告メッセージについて詳しくは、「故障かな？と思ったら」の「AUTO SETUP」編をご覧ください（「取扱説明書」69 ページ）。
- 「－－－」は、警告対象外のスピーカーをあらわしています。

3 ⑦ENTER キーを押して、結果表示の初期画面に戻る。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00〜12:00、13:00〜18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月〜金曜日 9:00〜19:00　土曜日 9:00〜17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月〜金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00〜17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!



こんな症状はありませんか?
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1





ヤマハ株式会社

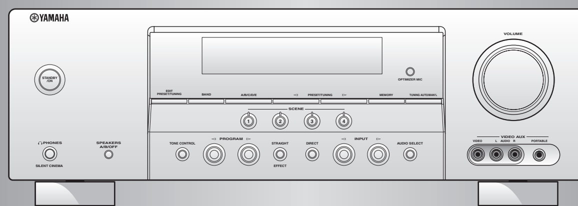
Printed in China WN25780

YAMAHA

DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX463



取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にスタートアップガイドと取扱説明書、保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



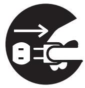
警告

電源/電源コード


必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。


プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

(AV-1)

電池


禁止

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止


分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置


水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。


禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意


禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。


必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。


禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ


必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード


プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。


ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。


禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。


必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。


禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池


必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。


必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。


禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。


必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動


プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意


必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。


禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。


禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。


注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

手入れ


必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。


禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

もくじ

はじめに

準備

基本操作

応用操作

その他の情報

付録

「Ⓐ**SPEAKERS**」や「④**DVD**」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または本書 78 ～ 79 ページをご覧ください。

スタートアップガイド　もくじ

本機の特長

高音質ハイパワー 7 チャンネルアンプ搭載
◆ 定格出力 (6Ω、1kHz、歪率 0.9%)
全チャンネル： 105W

１つのキーで簡単に再生できる SCENE（シーン）機能搭載
◆ 楽しみたいソースや再生モードの組み合わせ（SCENE テンプレート）を、あらかじめ登録されている 15 種類の中から選べる SCENE テンプレート選択機能
◆ SCENE テンプレート作成機能

多彩な音響技術に対応
◆ ドルビープロロジックデコーダー
ドルビープロロジック II デコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
◆ AAC デコーダー
◆ DTS デコーダー

高機能 FM/AM チューナー
◆ 40 局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能

高音質設計
◆ 192kHz、24 ビットの D/A コンバーターを採用

HDMI 対応
◆ １本のHDMIケーブルを接続するだけでデジタル音声/映像をデジタルのまま、高音質／高画質で伝送できる HDMI 端子

DOCK 端子
◆ ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）や Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）を接続できる、DOCK 端子を装備

その他
◆ 視聴空間最適化システム「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer) 搭載
◆ 視聴環境にあわせて、各種設定をモニターを見ながら変更できるメニュー画面表示機能
◆ 外部機器や、ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）にセットした iPod を操作できるリモコンコード設定機能付きリモコン
◆ 夜間の視聴に適したナイトリスニングモード（映画用 / 音楽用）
◆ 就寝時に便利なスリープタイマー
◆ DVD オーディオやスーパーオーディオ CD にも対応できるアナログマルチチャンネル入力（MULTI CH IN）端子
◆ D4 ビデオ入出力端子
◆ 光デジタル（OPTICAL）入出力端子
◆ 同軸デジタル（COAXIAL）入力端子

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

- ❏ リモコン
- ❏ 単４乾電池（2 本）
- ❏ オプティマイザーマイク
- ❏ AM ループアンテナ
- ❏ FM 簡易アンテナ
- ❏ スタートアップガイド



音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

本書の記載について

本書について

- ・ は知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- フロントパネルキーとリモコンキーのどちらでも操作できる場合があります。フロントパネルキーとリモコンキーの名称が違う場合は、（　）内にリモコンキーの名称を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 「ⒶSPEAKERS」や「④DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「キー対応表」、または巻末をご覧ください。
- 「☞ ○○ページ」は参照ページを表しています。



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号 は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS、DTS Digital Surroundは、DTS社の商標です。

SILENT ™
CINEMA

「サイレントシネマ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

iPod™

iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。

Bluetooth™

Bluetoothは、Bluetooth SIGの登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。



AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

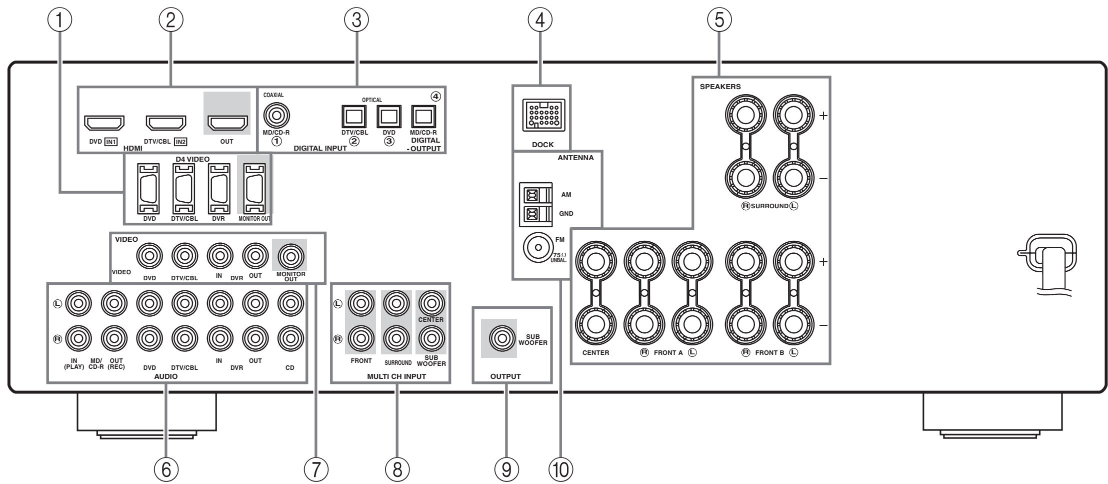
08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729



HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

接続

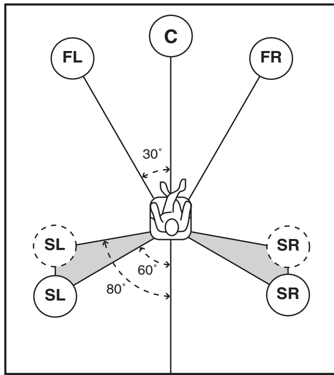
リアパネル（背面）

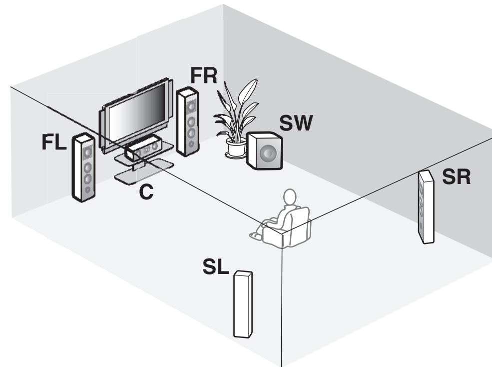


	名称	ページ
①	D4 VIDEO 端子	12
②	HDMI 端子	12
③	DIGITAL INPUT/OUTPUT 端子	12
④	DOCK 端子	19
⑤	スピーカー端子	10
⑥	AUDIO 端子	12
⑦	VIDEO 端子	12
⑧	MULTI CH INPUT 端子	18
⑨	SUBWOOFER OUTPUT 端子	10
⑩	ANTENNA 端子	20

スピーカーを設置する

下図はおすすめのスピーカー配置を表しています。このように設置すれば、CINEMA DSP やマルチチャンネルソースを効果的に楽しめます。





スピーカー表示

FL ／ **FR**：フロント左／右
C：センター
SL ／ **SR**：サラウンド左／右
SW：サブウーファー

フロント左／右スピーカー

フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。リスニングルーム前方に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から 1 ／ 4 位の高さが適当です。

センタースピーカー

会話やボーカルなど、画面中央に定位する音を出力します。フロント左／右スピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

サラウンド左／右スピーカー

サラウンド音と効果音を出力します。リスニングルーム左右後方に、リスニングポジションに向けて設置します。

サブウーファー

ドルビーデジタル、AAC 信号に含まれる LFE（低域効果音）や、低音を出力します。ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いください。リスニングルーム前方のフロント左／右スピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

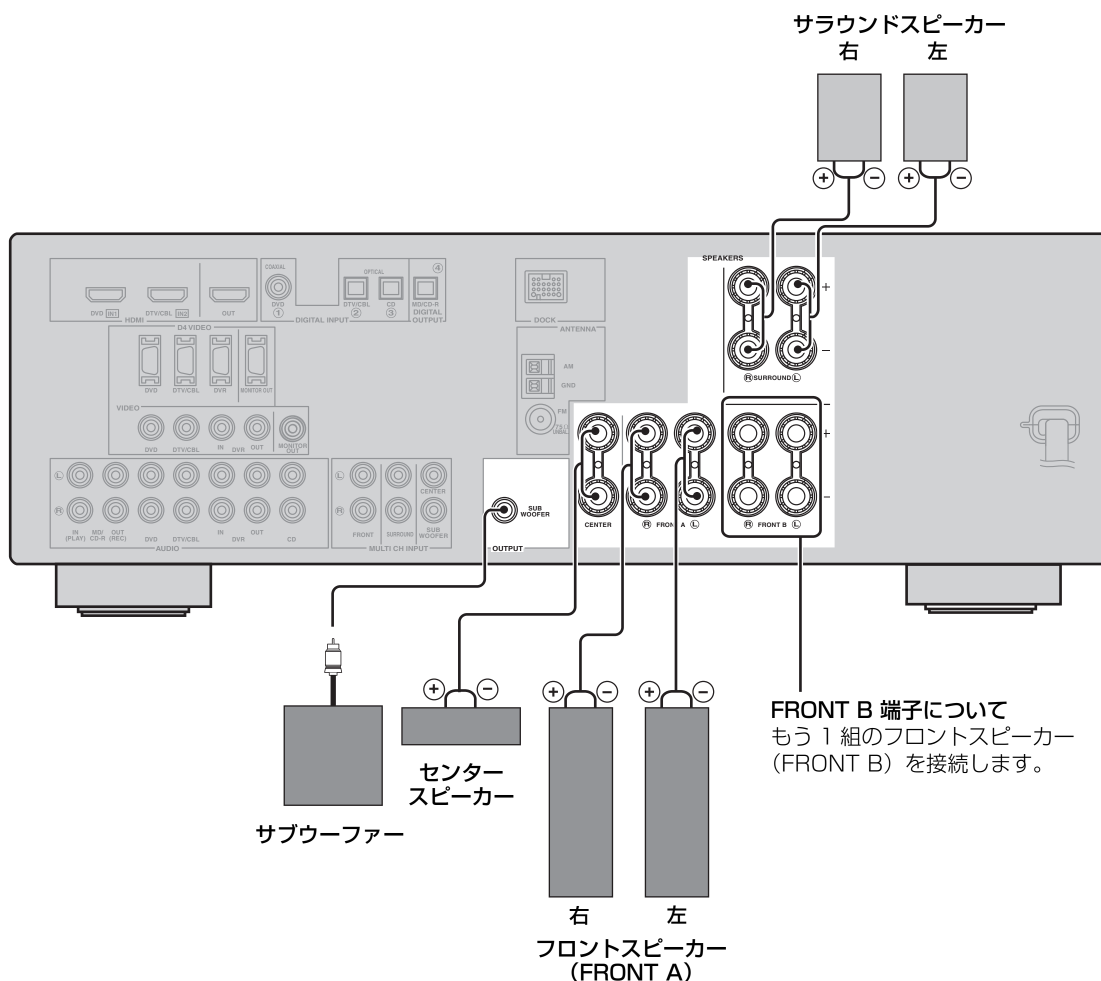
スピーカーを接続する

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「+」（プラス、赤）、「−」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると、音声が正しく再生されないことがあります。

警告

- スピーカーを接続する前に、本機の電源コードがコンセントに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。また、スピーカーケーブルがショートしていると、本機の電源をオンにしたときにフロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。
- スピーカーは防磁型をお使いください。防磁型スピーカーをお使いでもモニターの画面が乱れる場合は、モニターとスピーカーを離して設置してください。
- スピーカーは、インピーダンスが 6 Ω 以上のものをお使いください。

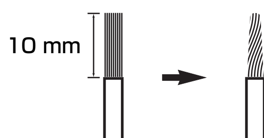
■ スピーカー接続



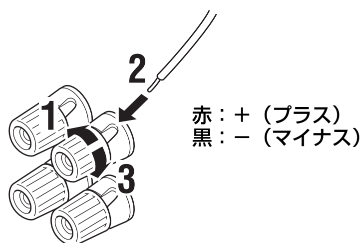
■ スピーカーケーブルを接続する前に

一般的にスピーカーケーブルは、平行した 2 本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの 1 本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。
異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。

スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10 mm ぐらいはがし、ショートしないように芯線をしっかりとよじる。



■ FRONT A 端子に接続する



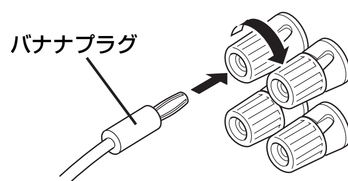
1 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

2 スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

3 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。

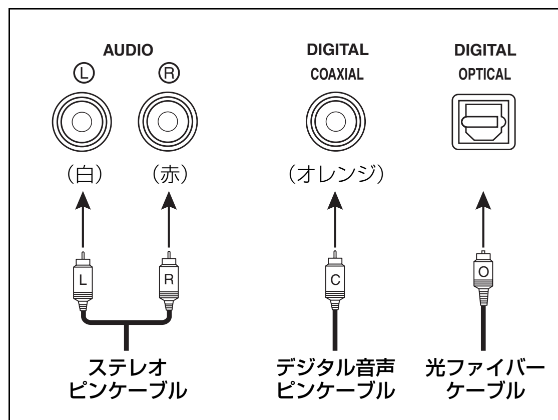
市販のバナナプラグを使う場合

市販のバナナプラグを使う場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

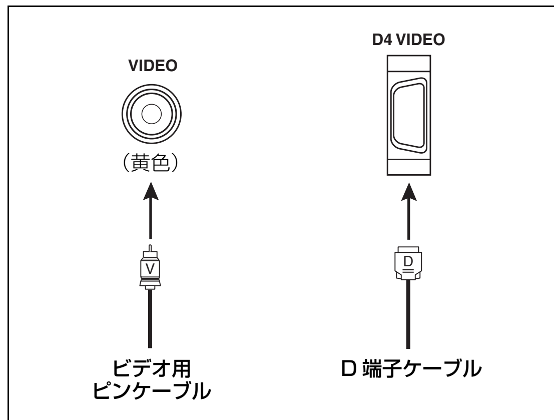


端子とケーブルについて

音声端子とケーブルについて



映像端子とケーブルについて



■ 音声端子

本機は３種類の音声端子を装備しています。お使いの機器に装備されている音声端子にあわせて、使用する端子を決定してください。

AUDIO 端子

標準的なアナログ左右音声信号をステレオピンケーブルを使って伝送します。

DIGITAL COAXIAL 端子

同軸デジタル音声信号をデジタル音声ピンケーブルを使って伝送します。

DIGITAL OPTICAL 端子

光デジタル音声信号を光ファイバーケーブルを使って伝送します。

ご注意

デジタル音声端子は、PCM およびドルビーデジタル、DTS のビットストリーム信号を入力できます。１つの機器を COAXIAL 端子と OPTICAL 端子の両方を使って接続した場合は、COAXIAL 端子に入力された信号を優先的に再生します。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数 96kHz までのデジタル信号に対応しています。

■ 映像端子

本機は２種類の映像端子を装備しています。お使いの機器に装備されている映像端子にあわせて、使用する端子を決定してください。

VIDEO 端子

標準的なコンポジットビデオ信号をビデオ用ピンケーブルを使って伝送します。

D4 VIDEO 端子

輝度信号（Y）と青色差信号（P_B）、赤色差信号（P_R）に分離したコンポーネントビデオ信号と、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を D 端子ケーブルを使って伝送します。

HDMIについて

■ HDMI信号について

音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2チャンネルリニアPCM	2ch、32-192kHz、16／20／24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニアPCM	6ch、32-192 kHz、16／20／24bit	DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、DTS、AAC	DVD-Video

本機のHDMIインターフェースは、以下の規格に準拠しています。
- HDMI Version 1.2a（High-Definition Multimedia Interface Specification Version 1.2a）
- HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）

ご注意

- お使いのDVDプレーヤーによっては、コピープロテクトがかかったDVDオーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機はHDCP非対応のHDMIまたはDVI端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP対応の有無については、お使いのHDMI機器またはDVI機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

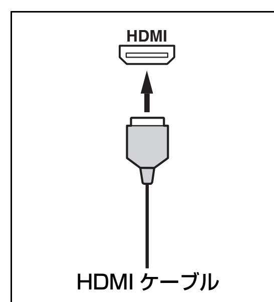
映像信号について

以下の解像度に対応しています。

映像信号フォーマット

– 480i／60Hz
– 576i／50Hz
– 480p／60Hz
– 576p／50Hz
– 720p／60Hz、50Hz
– 1080i／60Hz、50Hz
– 1080p／60Hz、50Hz、24Hz

■ HDMI端子とHDMIケーブルについて





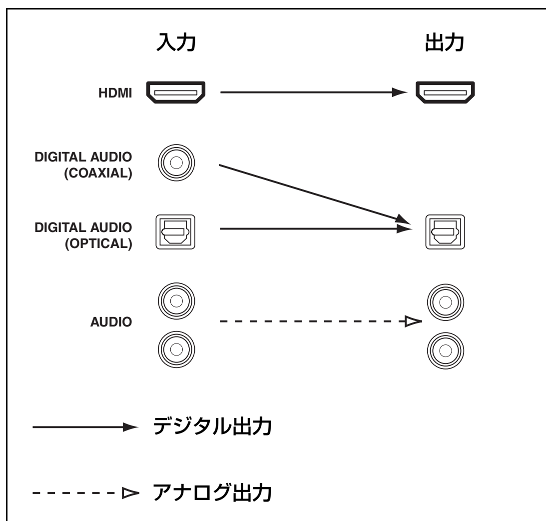
- 接続には19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ5.0m以下のものを使うことをおすすめします。
- 本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子⇔DVI-D端子の変換ケーブルが必要です。

ご注意

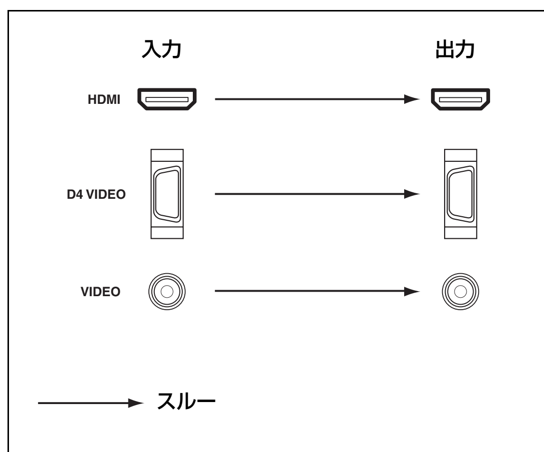
- HDMIで接続した機器を再生中に、本機のHDMI OUT端子に接続しているHDMI／DVI機器の電源をオン／オフしたり、HDMIケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたり、ノイズが発生したりすることがあります。
- HDMI IN 1またはHDMI IN 2以外の端子に入力した音声信号はHDMI OUT端子から出力されません。
- お使いのテレビやプロジェクターによっては、本機とDVI接続した場合、それらの電源がオフ、またはスタンバイのときや、DVI入力を選択していないときに、HDMI接続した再生機器からの音声が再生されないことがあります。

音声信号と映像信号の流れについて

■ 音声信号の流れについて



■ 映像信号の流れについて



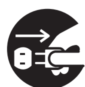
ご注意

- 「SUPPORT AUDIO」（53 ページ）を「Other」に設定すると、HDMI IN 端子に入力した 2 チャンネル PCM、マルチチャンネル PCM、ドルビーデジタル、DTS 信号は HDMI OUT 端子から出力されます。
- HDMI IN 端子に入力した音声信号は、AUDIO OUT 端子、および DIGITAL OUTPUT 端子から出力されません。

準備

テレビやプロジェクターを接続する

テレビ（またはプロジェクター）を本機の HDMI OUT 端子、または D4 VIDEO MONITOR OUT 端子、VIDEO MONITOR OUT 端子に接続します。



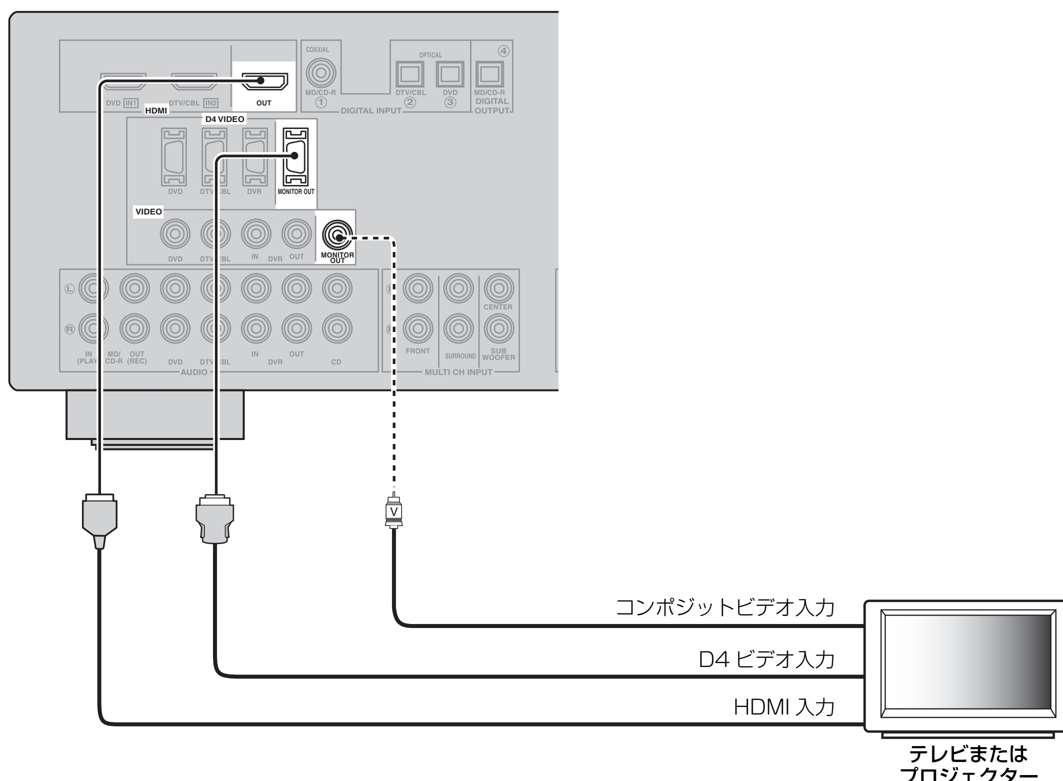
本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。



- HDMI 音声信号を、本機で再生するか、本機の HDMI OUT 端子に接続した HDMI 機器で再生するかを選べます。「SOUND MENU」の「SUPPORT AUDIO」で、HDMI 音声信号を再生する機器を選んでください（53 ページ）。
- テレビ番組を楽しむ場合は、テレビのデジタル／アナログ音声出力端子を本機のデジタル／アナログ音声入力端子に接続してください。接続について詳しくは、「衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーを接続する」（17 ページ）をご覧ください。
- テレビと再生機器を HDMI 接続している場合は、テレビの光デジタル出力端子を本機の DIGITAL INPUT OPTICAL 端子に接続してください。
- テレビと本機を HDMI 接続する場合は、HDMI 端子に加え、モニター画面表示用に本機とテレビを 1 種類の映像端子を使って接続してください。また、本機とその他の映像機器も HDMI 接続してください。

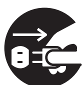
ご注意

本機とモニターを DVI 接続し、モニターの電源がスタンバイのときは、モニターの種類によっては HDMI 音声／映像入力信号を認識できない場合があります。



————	おすすめの接続方法
- - - - - - - -	代わりの接続方法

他の外部機器を接続する

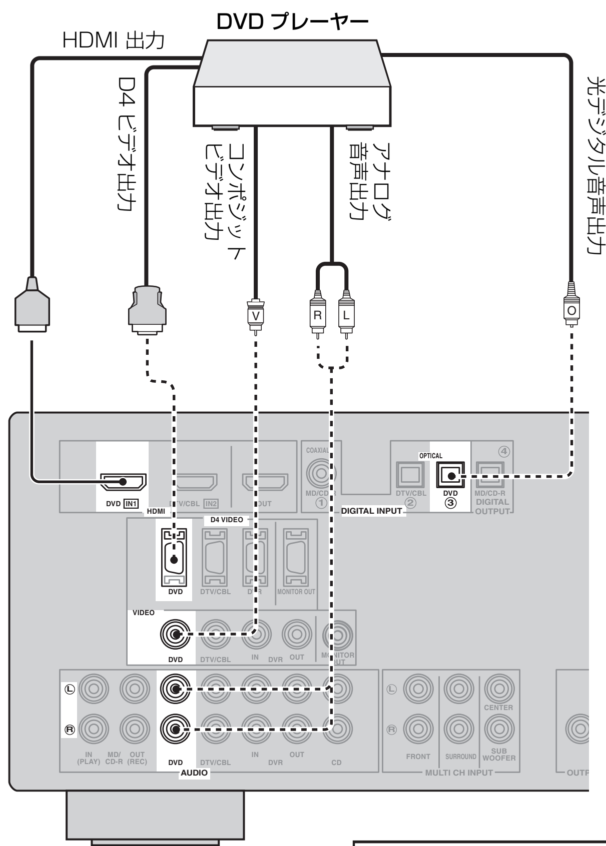


本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。

ご注意

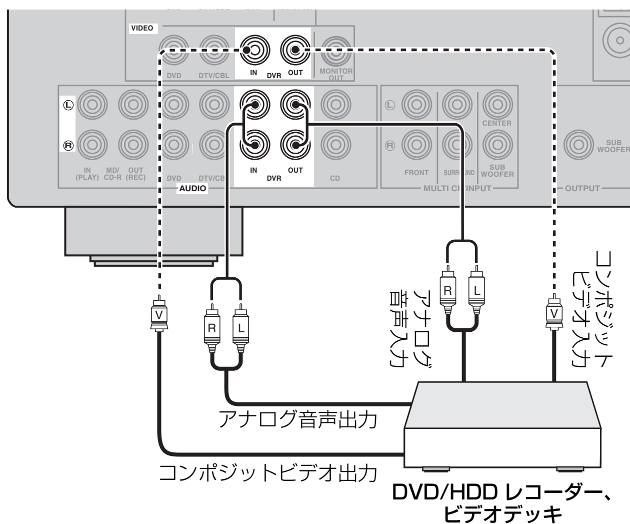
HDMI IN または、DIGITAL INPUT、DIGITAL OUTPUT 端子に、初期状態でそれぞれの端子に割り当てられている機器とは違う機器を接続する場合は、「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更してください（54ページ）。

■ DVD プレーヤーを接続する

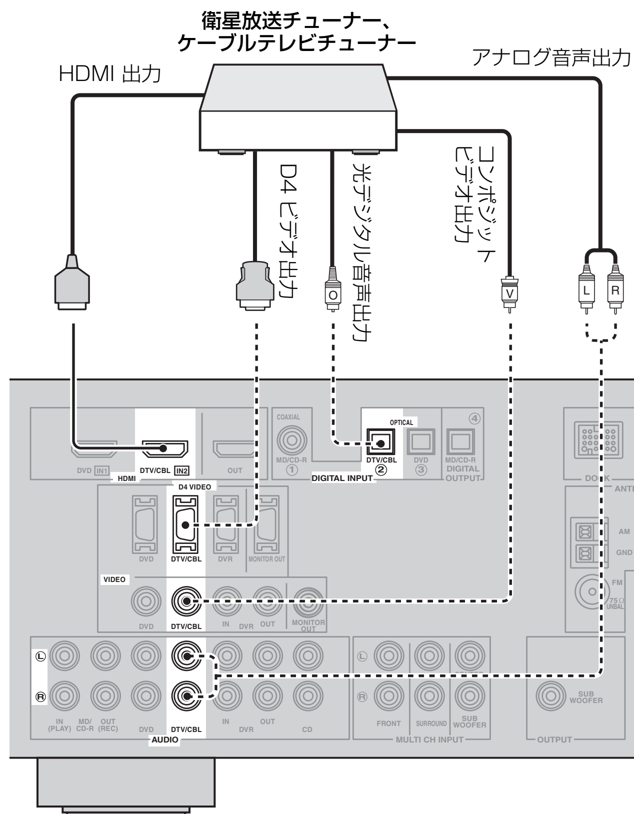


————	おすすめの接続方法
・・・・・・・	代わりの接続方法 （映像で１つ、音声で１つを選んで接続してください。）

■ DVD ／ HDD レコーダー、ビデオデッキを接続する



■ 衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーを接続する



———	おすすめの接続方法
- - - - -	代わりの接続方法 （映像で１つ、音声で１つを選んで接続してください。）

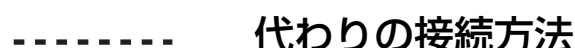
音声機器を接続する

以下の説明を参照して、音声機器を接続してください。

■ CD プレーヤー、CD レコーダー／ MD レコーダーを接続する

本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。

おすすめの接続方法


代わりの接続方法

■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネル音声出力端子がある機器と本機を接続すれば、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。
マルチチャンネル音声出力端子がある機器の音声出力端子を本機の MULTI CH INPUT 端子に接続してください。接続の際は、フロントおよびサラウンドチャンネルの左／右をご確認のうえ、正しく接続してください。

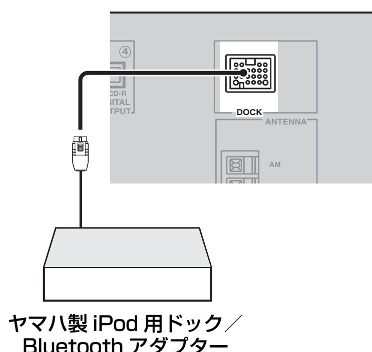
ご注意

- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を入力選択すると（29 ページ）、音場プログラムは選べなくなります。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声信号は出力されません。マルチチャンネル機器の音声を聴く場合は、5.1 チャンネルのスピーカー構成で楽しむことをおすすめします。

マルチチャンネル機器
（5.1 チャンネル出力）

ヤマハ製iPod用ドック／Bluetoothアダプターを接続する

本機は、ヤマハ製 iPod 用ドックや Bluetooth アダプターを接続するための DOCK 端子を装備しています。iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）や Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）を接続すれば、iPod や Bluetooth 機器の再生が楽しめます。接続用のケーブルは専用のものをお使いください。





再生のしかたについて詳しくは、「iPod を再生する」（42 ページ）、および「Bluetooth 機器の再生を楽しむ」（44 ページ）をご覧ください。

VIDEO AUX端子を使う

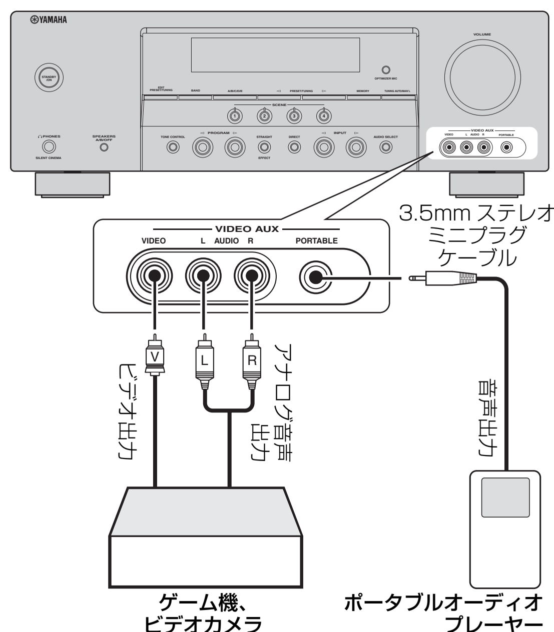
ゲーム機やビデオカメラをフロントパネルの VIDEO AUX 端子に接続します。

警告

本機と接続機器の音量を十分に下げてから接続してください。

ご注意

- V-AUX 端子に接続した機器を再生するには、入力ソースに「V-AUX」を選んでください。
- DOCK 端子、AUDIO 端子、PORTABLE 端子に同時に音声信号が入力されている場合は、入力された音声信号以下の優先順位で出力されます。
  1. DOCK
  2. PORTABLE
  3. AUDIO



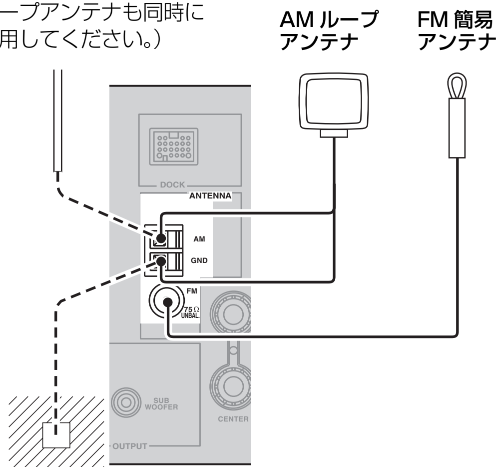
準備

FM ／ AMアンテナを接続する

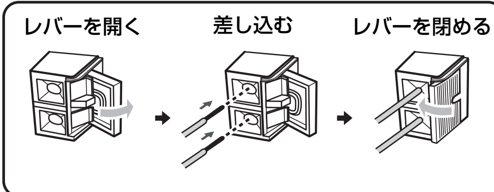
本機には、FM 簡易アンテナおよび AM ループアンテナが付属しています。これらのアンテナをそれぞれのアンテナ端子に正しく接続してください。通常はこれらのアンテナで十分な受信感度を得られます。

ご注意

- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。



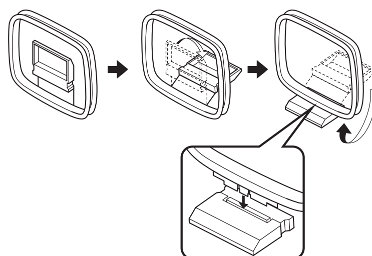
AM ループアンテナを接続する





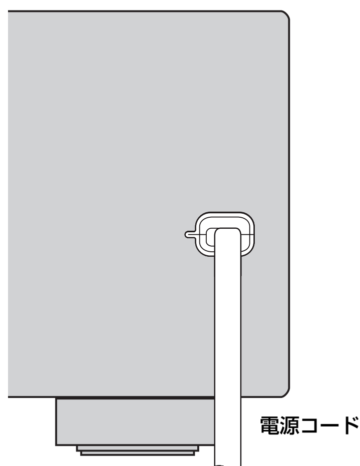
コードに極性はありません。また、AM と GND それぞれの端子にどちらのケーブルを接続してもかまいません。

AM ループアンテナを組み立てる



電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、家庭用 AC100V、50 ／ 60Hz の AC コンセントに電源コードのプラグを接続します。



本機の電源をオン／スタンバイする

■ 電源の入れかた

フロントパネルの Ⓐ STANDBY/ON キー（またはリモコンの ⑰ POWER キー）を押す。
本機の電源がオンになります。

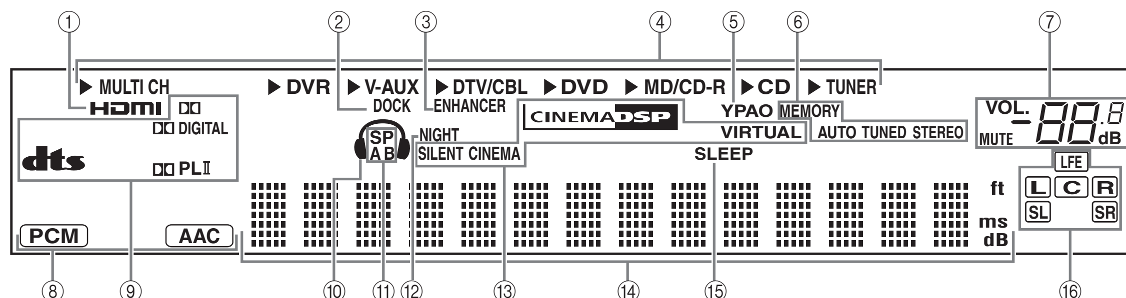


- 本機の電源をオンにしてから音声が出力するまで、数秒かかります。
- ⓞSCENE キー（または ⑤SCENE キー）を押して本機の電源をオンにすることもできます。

■ 電源の切りかた

フロントパネルの Ⓐ STANDBY/ON キー（またはリモコンの ⑱ STANDBY/ON キー）を押す。
スタンバイになっているあいだも、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

フロントパネルディスプレイ



① **HDMI インジケーター**

入力ソースの信号を HDMI IN 端子から入力しているときに点灯します（13 ページ）。

② **DOCK（ドック）インジケーター**

- ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）にセットした iPod からの信号を本機が認識していて（19 ページ）、V-AUX を入力選択している場合に点灯します。
- ヤマハ製 Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）、および Bluetooth 機器をペアリングしている（44 ページ）、または Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器をサーチしている（44 ページ）ときに点滅します。
- ヤマハ製 Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器に接続されたときに点灯します（44 ページ）。

③ **ENHANCER（エンハンサー）インジケーター**

コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生しているときに点灯します（34 ページ）。

④ **入力ソースインジケーター**

現在選んでいる入力ソース名の左側に、赤色の「▶ 」が点灯します（29 ページ）。

⑤ **YPAO インジケーター**

AUTO SETUP の実行中、および AUTO SETUP での設定が有効になっているときに点灯します（「スタートアップガイド」9 ページ）。

⑥ **チューナーインジケーター**

FM ／ AM 放送を聴くときや、放送局をプリセットするときに点灯します（39 ページ）。

⑦ **MUTE（ミュート）インジケーター、VOLUME（ボリューム）インジケーター**

- 本機をミュート（消音）しているときに MUTE インジケーターが点滅します（31 ページ）。
- 現在の音量を VOLUME インジケーターで表示します

⑧ **入力信号インジケーター**

PCM（Pulse Code Modulation）信号または AAC（Advanced Audio Coding）信号を再生しているときに点灯します。

⑨ **デコーダーインジケーター**

本機のデコーダーが動作しているときに、デコーダーの種類に応じて点灯します。

⑩ **ヘッドホンインジケーター**

ヘッドホンを接続しているときに点灯します（31 ページ）。

⑪ **SP A ／ B インジケーター**

選んでいるフロントスピーカーに応じて点灯します（29 ページ）。
SP A：フロント A スピーカーを選んでいます。
SP B：フロント B スピーカーを選んでいます。

⑫ **NIGHT（ナイト）インジケーター**

ナイトリスニングモード時に点灯します（38 ページ）。

⑬ DSP インジケーター

CINEMA DSP インジケーター
音場プログラムをオンにして再生しているときに点灯します（34 ページ）。

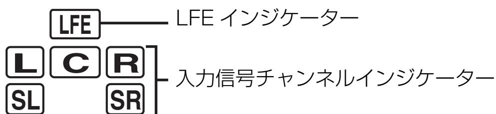
VIRTUAL インジケーター
バーチャルシネマ DSP モードで再生しているときに点灯します（35 ページ）。

SILENT CINEMA インジケーター
ヘッドホンを接続し、音場プログラムを選んでいるときに点灯します（35 ページ）。

⑭ マルチインフォメーションディスプレイ
現在選んでいる音場プログラムの名前や、設定を変更するときのさまざまな情報を表示します。

⑮ SLEEP インジケーター
スリープタイマーをオンに設定しているときに点灯します（33 ページ）。

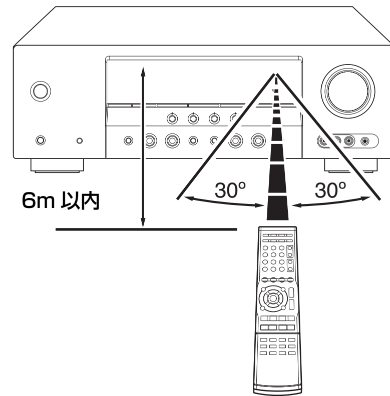
⑯ 入力信号チャンネル／スピーカーインジケーター



- 入力しているデジタル信号に含まれているチャンネルに応じて点灯します。
- AUTO SETUP を実行しているときや（「スタートアップガイド」9 ページ）、「TEST TONE」（51 ページ）を「ON」に設定し、「SP LEVEL」を調節しているとき（50 ページ）に、スピーカーの設定に応じて点灯／点滅します。

リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。



① 赤外線送信部
リモコン操作用の赤外線信号を送信します。リモコンを操作するときは、送信部を操作したい機器に向けてください。


外部機器のリモコンコードを設定するには、61 ページをご覧ください。

ご注意

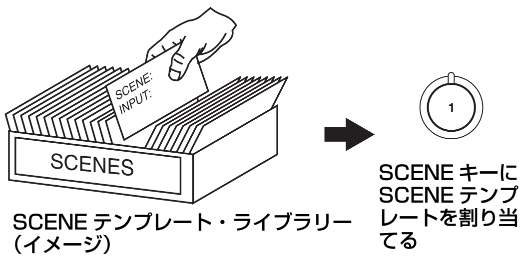
- 水やお茶などの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないでください。
  - 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  - 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
  - 極端に寒いところ
  - ほこりの多いところ

SCENE テンプレートを選ぶ

本機は使用する状況にあわせて、15 種類の SCENE テンプレートが記憶されています。初期設定では、それぞれの SCENE キーに以下の SCENE テンプレートが設定されています。

SCENE 1：DVD Movie Viewing（ムービー ビューイング）
SCENE 2：Music Disc Listening（ミュージック ディスク リスニング）
SCENE 3：TV Viewing（ビューイング）
SCENE 4：Radio Listening（ラジオ リスニング）

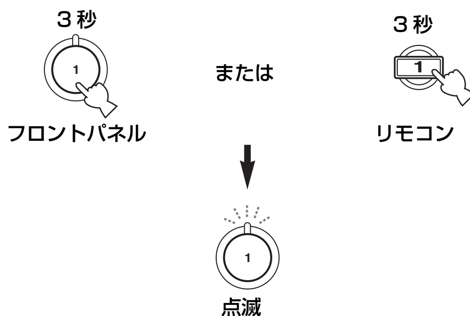
他の SCENE テンプレートを使いたい場合は、記憶されている SCENE テンプレートの中からお好みにあった SCENE テンプレートを選んで、フロントパネルやリモコンの SCENE キーに設定できます。



SCENE テンプレートを入れ替える

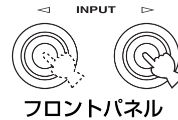
1 SCENE テンプレートを入れ替えたい ◎SCENE キー（または ⑤SCENE キー）を約３秒間押し続ける。

フロントパネル ◎SCENE キー上部のランプが点滅し、フロントパネルディスプレイに現在設定されている SCENE テンプレートが表示されます。

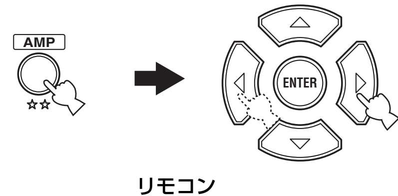




2 ⓇINPUT ◁ / ▷ キーを押して（または ④AMP キーを押してから ⑧◁ / ▷ を押して）、設定したいテンプレートを選ぶ。



または



リモコン



3 ◎SCENE キー（または ⑤SCENE キー）をもう一度押して、確定する。

選んだ SCENE テンプレートが ◎SCENE キーに設定されます。



フロントパネル

または

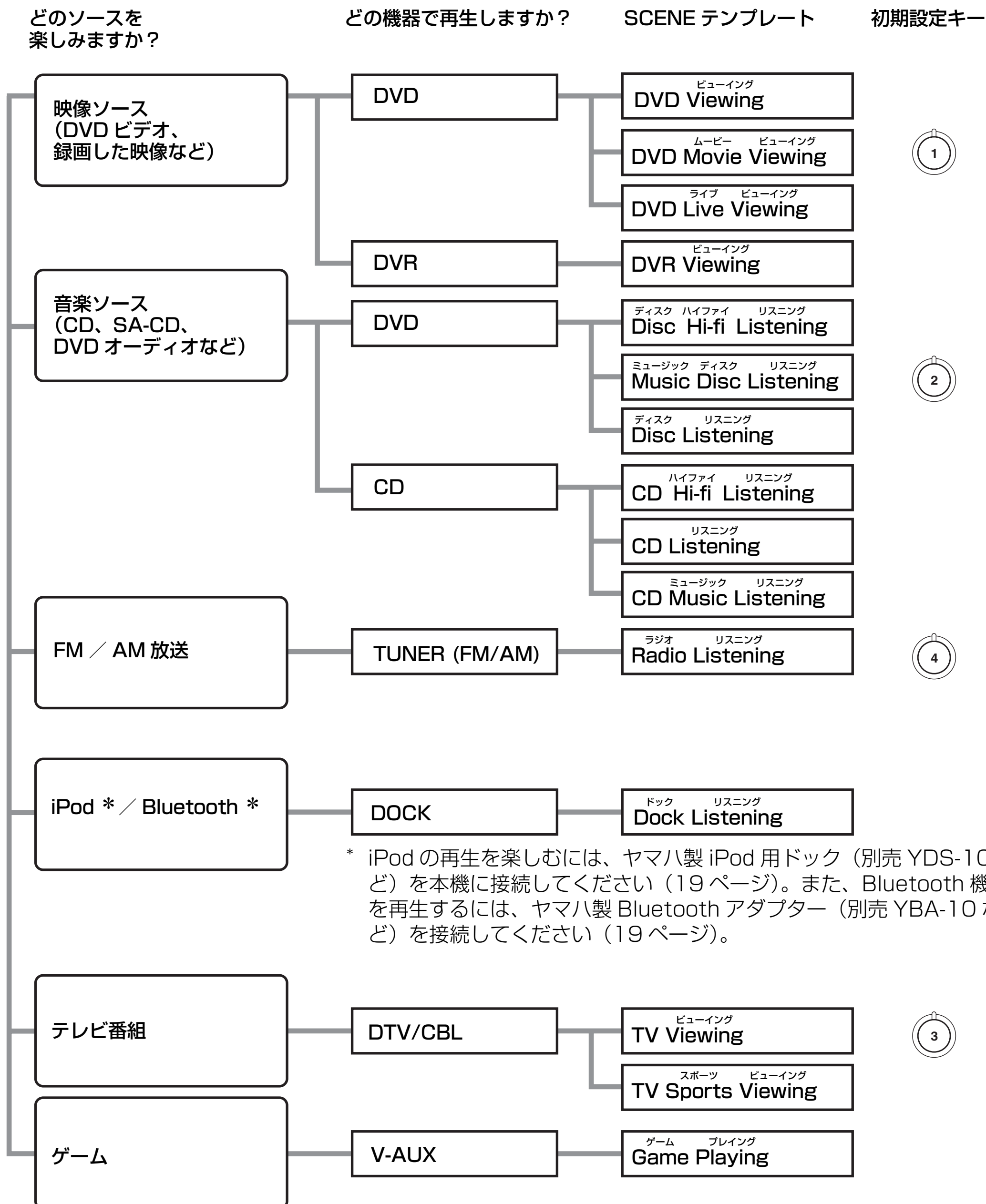


リモコン

ご注意

SCENE テンプレートを入れ替えた場合、リモコンの ⑤SCENE キーに設定されている入力ソースも変更する必要があります。詳しくは、28 ページをご覧ください。

■ どの SCENE テンプレートを選びますか？



＊ iPod の再生を楽しむには、ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）を本機に接続してください（19 ページ）。また、Bluetooth 機器を再生するには、ヤマハ製 Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）を接続してください（19 ページ）。

上記の SCENE テンプレートを編集し、新しいテンプレートを作成できます。詳しくは、27 ページ をご覧ください。

ご注意

DOCK 端子と VIDEO AUX 端子に同時に音声信号が入力されている場合は、DOCK 端子に入力された音声信号が出力されます。

■ SCENE テンプレート一覧

表中の SCENE1 ～ 4 キーで示された部分は、SCENE1 ～ 4 キーの初期設定を表しています。

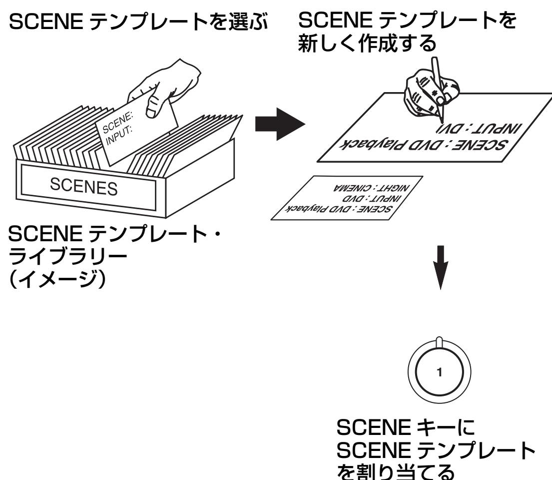
SCENE テンプレート	入力ソース	再生モード	説明
DVD Viewing(ビューイング)	DVD	STRAIGHT(ストレート)	DVD プレーヤーで DVD を見るときに選びます。
DVD Movie(ムービー) Viewing(ビューイング) ①	DVD	MOVIE(ムービー) Movie(ムービー) Dramatic(ドラマチック)	DVD プレーヤーで映画を見るときに選びます。
DVD Live(ライブ) Viewing(ビューイング)	DVD	MUSIC(ミュージック) Pop(ポップ)/Rock(ロック)	DVD プレーヤーで音楽ソフトを見るときに選びます。
DVR Viewing(ビューイング)	DVR	MOVIE(ムービー) Movie(ムービー) Dramatic(ドラマチック)	DVD レコーダーで映画を見るときに選びます。
Disc(ディスク) Hi-fi(ハイファイ) Listening(リスニング)	DVD	DIRECT(ダイレクト)	DVD プレーヤーで CD や DVD オーディオを原音に忠実な音質で聴くときに選びます。
Music(ミュージック) Disc(ディスク) Listening(リスニング) ②	DVD	STEREO(ステレオ) 2ch Stereo(ステレオ)	DVD プレーヤーで CD を 2 チャンネルで聴くときに選びます。
Disc(ディスク) Listening(リスニング)	DVD	STEREO(ステレオ) 5ch Stereo(ステレオ)	DVD プレーヤーで CD や DVD オーディオを BGM として聴くときに選びます。
CD Hi-fi(ハイファイ) Listening(リスニング)	CD	DIRECT(ダイレクト)	CD プレーヤーで CD を原音に忠実な音質で聴くときに選びます。
CD Listening(リスニング)	CD	STEREO(ステレオ) 5ch Stereo(ステレオ)	CD プレーヤーで CD を BGM として聴くときに選びます。
CD Music(ミュージック) Listening(リスニング)	CD	STEREO(ステレオ) 2ch Stereo(ステレオ)	CD プレーヤーで CD を 2 チャンネルで聴くときに選びます。
Radio(ラジオ) Listening(リスニング) ④	TUNER	MUSIC(ミュージック) ENHANCER(エンハンサー) 5ch Enhancer(エンハンサー)	FM/AM 放送を聴くときに選びます。
Dock(ドック) Listening(リスニング)	DOCK	MUSIC(ミュージック) ENHANCER(エンハンサー) 5ch Enhancer(エンハンサー)	iPod や Bluetooth を聴くときに選びます。
TV Viewing(ビューイング) ③	DTV/CBL	STRAIGHT(ストレート)	テレビを見るときに選びます。
TV Sports(スポーツ) Viewing(ビューイング)	DTV/CBL	ENTERTAINMENT(エンターテイメント) TV Sports(スポーツ)	テレビでスポーツを見るときに選びます。
Game(ゲーム) Playing(プレイング)	V-AUX	ENTERTAINMENT(エンターテイメント) Game(ゲーム)	ゲームをするときに選びます。

新しいSCENEテンプレートを作成する

SCENE テンプレートを新しく作成して、それぞれの SCENE キーに設定できます。本機に記憶されている 15 種類の SCENE テンプレートを基に、新しく SCENE テンプレートを作成します。

■ SCENE テンプレートの設定を変更する

本機に記憶されている SCENE テンプレートを基に、新しく SCENE テンプレートを作成します。



1 本機と接続したモニターの電源をオンにする。

2 編集したい SCENE テンプレートが設定されている ⑤SCENE キーを約3秒間押し続ける。

SCENE テンプレートの編集画面がモニターに表示されます。



3 秒間

ご注意

編集したい SCENE テンプレートが ⑤**SCENE** キーに設定されていない場合は、⑦◁ / ▷ キーを繰り返し押して、編集画面に表示されている SCENE テンプレートを切り替えてください。

3 ④AMP キーを押してから、⑦△ / ▽ キーを押して SCENE テンプレートの項目を選び、⑦◁ / ▷ キーを押して設定値を選ぶ。

以下の項目を編集できます。

- **INPUT**：入力ソース設定
- **MODE**：再生モード設定
- **NIGHT**：ナイトリスニングモード設定
  - SYSTEM: 現在の設定を保持します。
  - CINEMA: ナイトリスニング･シネマモードで再生します。
  - MUSIC: ナイトリスニング・ミュージックモードで再生します。

4 ⑤SCENE キーをもう一度押して、確定する。





新しく作成した SCENE テンプレートには、名前の前に「＊（アスタリスク）」が表示されます。

ご注意

- SCENE テンプレートを編集した場合、リモコンの ⑤**SCENE** キーに設定されている入力ソースも変更する必要があります。詳しくは、28 ページをご覧ください。
- 新しく作成した SCENE テンプレートを再編集した場合は、変更内容を上書きして保存します。
- 新しく作成した SCENE テンプレートは、設定した ⑤**SCENE** キーでのみ選べます。

■ SCENE テンプレート名を変更する

「新しい SCENE テンプレートを作成する」の手順 3 で、SCENE テンプレートの名前を選び、⑦ENTER キーを押す。

- 文字を変更するには、⑦△ / ▽ キーを押します。
- 変更したい文字の位置へ「 _ 」（下線）を移動するには、⑦◁ / ▷ キーを押します。
- 変更した名前を無効にするには、⑧**RETURN** キーを押します。
- 変更した名前を確定するには、⑦**ENTER** キーを押します。

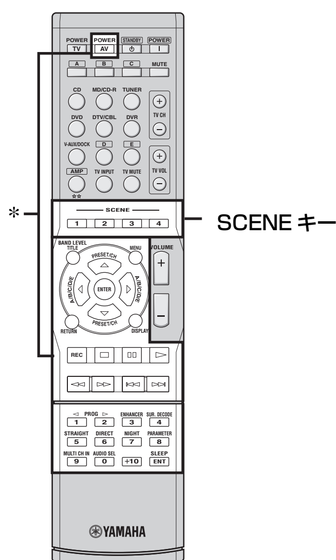
SCENE（シーン）機能でのリモコンの役割と操作について

■ SCENE 機能で使用できるキーについて

SCENE 機能で楽しむ外部機器のリモコンコードを設定すれば、本機のリモコンを使って外部機器を操作できます。リモコンコードの設定方法について詳しくは、「リモコンコードを設定する」（61 ページ）をご覧ください。

1 楽しみたいシーンの ⑤SCENE キーを押す。

2 ＊で示されているキーを押して、シーン機能で楽しむ機器を操作する。





* この部分で示されているキーを使って、シーン機能で楽しむ機器を操作できます。

■ SCENE キーで呼び出す入力ソースを変更する

「SCENE テンプレートを 入れ替える」（24 ページ）や「新しい SCENE テンプレートを作成する」（27 ページ）で、各 SCENE キーで呼び出す入力ソースを変更した場合に、変更後もリモコンで入力ソースを操作できるように SCENE キーの設定を変更します。

設定を変更するリモコンの ⑤SCENE キーを押しながら、SCENE テンプレートで設定されている入力ソースの入力選択キー（③）を約 3 秒間押し続ける。



本機のリモコンを使って外部機器を操作する場合は、再度⑤SCENE キーを押してから操作してください。

再生する

警告
DTS-CD を再生するときは、特に注意が必要です。DTS-CD を DTS 非対応の CD プレーヤーで再生するとノイズだけが再生され、スピーカーが故障する原因になります。お使いの CD プレーヤーが DTS-CD の再生に対応していること（接続端子など）をご確認ください。また、DTS-CD を再生する前に音量をご確認ください。

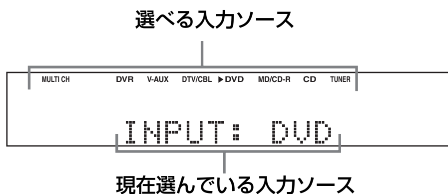

デジタル接続をして DTS-CD を楽しむときは、再生する前に「INPUT MENU」の「DECODER MODE」を「DTS」に設定してください（55 ページ）。

基本的な操作

1　本機に接続したモニターの電源をオンにする。

2　ⓛSPEAKERS キーを繰り返し押して、音を出すフロント左／右スピーカーを選ぶ。
選んでいるスピーカーは、フロントパネルディスプレイに表示されます。

3　ⓡINPUT ◁ / ▷ キーを繰り返し押して（または入力選択キー（③）を押して）、再生したい入力ソースを選ぶ。
現在選んでいる入力ソース名がフロントパネルディスプレイに数秒間表示されます。



4　入力機器を再生する、または FM ／ AM 放送局を選ぶ。
- 外部機器の操作については、外部機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- FM ／ AM 放送局の選びかたについては、39 ページをご覧ください。

5　ⓙVOLUME コントロールを回して（または㉓VOLUME ＋ / －キーを押して）、音量を調節する。

6　ⓝPROGRAM ◁ / ▷ キーを繰り返し押して（または ④AMP キーを押してから ⑪PROG ◁ / ▷ キーを繰り返し押して）、楽しみたい音場プログラムを選ぶ。
選んだ音場プログラムの名前がフロントパネルディスプレイに表示されます。音場プログラムについて詳しくは、34 ページをご覧ください。



現在選んでいる音場プログラム


- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
- 入力ソースを選ぶと、本機は前回その入力ソース選択時に選んでいた音場プログラムを自動的に呼び出します。
- 現在選んでいる音場プログラムの情報をモニター画面に表示できます。詳しくは、34 ページをご覧ください。

ご注意
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません。
- 入力ソースが 48kHz を超えるサンプリング周波数の PCM 信号の場合、「STRAIGHT」モードが適用されます。

■　主な機能

こんなときは	参照ページ
原音に忠実な音質で再生する	37
音色を調節する	37
音場パラメーターを変更する	36
夜間に小音量で音声を楽しむ	38
ヘッドホンで再生を楽しむ	31
2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ	35
一定時間後に自動的にスタンバイにする	33

音声を入力する端子を選ぶ（入力モード切り替え）

本機は複数種類の入力端子を装備しています。１つの再生機器を２種類以上の音声端子を使って接続している場合に、どの端子から音声を入力するかを選びます。



- 通常は「AUTO」に設定することをおすすめします。
- 「OPTION MENU」の「AUDIO SELECT」で、本機の電源を入れたときに、前回設定した入力モードをそのまま使うか AUTO に戻すかを設定できます（57 ページ）。

Ⓢ AUDIO SELECT キー（または ④AMP キーを押してから ⑮AUDIO SEL キー）を繰り返し押して、音声を入力する端子を切り替える。



AUTO	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）HDMI （2）同軸デジタル （3）光デジタル （4）アナログ
HDMI	HDMI 端子を選びます。HDMI 信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
COAX/OPT	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）同軸デジタル（2）光デジタル 同軸／光デジタル信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
ANALOG	アナログ端子を選びます。アナログ信号が入力されていない場合、音声は出力されません。

ご注意

HDMI、および同軸／光デジタル端子に再生機器が割り当てられていない場合、その端子は選べません。また、選んだ端子に再生機器が接続されていない場合、音声は出力されません。端子の割り当ては、「INPUT MENU」の「I/O ASSIGNMENT」で変更できます（54 ページ）。

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機の MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声を再生します。

Ⓡ INPUT キーを繰り返し押して（または ④AMP キーを押してから ⑭MULTI CH IN キーを押して）、マルチチャンネル入力を選ぶ。

フロントパネルディスプレイに「MULTI CH」と表示されます。



「INPUT MENU」の「MULTI CH SET」で、マルチチャンネル入力の設定を変更できます（56 ページ）。

ご注意

MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません。

モニターに操作状態を表示する

本機に接続したモニターに、現在の操作状態を表示できます。

1 本機に接続したモニターの電源をオンにする。

2 ④AMP キーを押してから ㉓DISPLAY キーを押す。
操作状態がモニターに表示されます。

```
STATUS            VOL:-40dB
    DVD Movie Viewing
          MOVIE
      Movie Spacious
      INPUT:  DVD
      A.SEL:  HDMI
      NIGHT:CINEMA (MID)

    [DISPLAY]:STATUS OFF
```



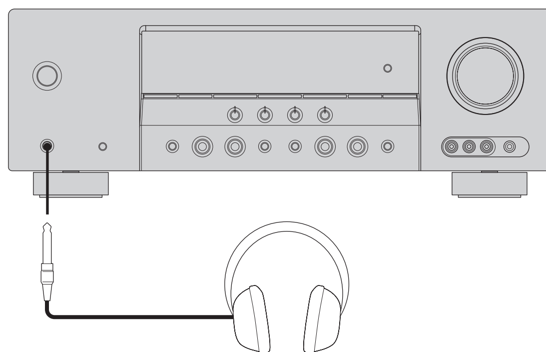
- 「OPTION MENU」の「OSD-AMP」で、操作状態を表示する時間を設定できます（57 ページ）。
- 表示画面を消すには、もう一度 ㉓DISPLAY キーを押します。

ご注意

本機の表示画面信号は本機の映像出力端子から出力されないので、表示画面が映像と一緒に録画されることはありません。

ヘッドホンで再生を楽しむ

ヘッドホンをフロントパネルの ⓀPHONES 端子に接続する。





ヘッドホンを接続しているときに音場プログラムを選ぶと、自動的にサイレントシネマ TM モードに切り替わります（35 ページ）。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときは、スピーカーから音声は出力されません。
- ドルビーデジタル、および DTS 信号はヘッドホンの左右チャンネルに振り分けられます。

一時的に音量を下げる

⑲MUTE キーを押して音量を下げる。
元の音量に戻すときは、もう一度 ⑲MUTE キーを押す。

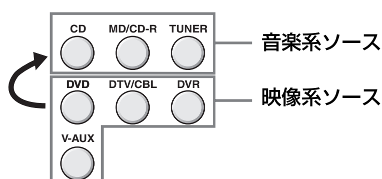


- フロントパネルの ⒿVOLUME コントロールを回す、またはリモコンの ㉓VOLUME ＋ / －キーを押して、ミュートを解除することもできます。
- 「SOUND MENU」の「MUTE TYPE」で、下げる音量を選べます（52 ページ）。
- 音量を一時的に下げているときは、フロントパネルディスプレイに MUTE インジケーターが点滅します。もとの音量に戻すと、インジケーターは消灯します。

音声と映像で異なる入力ソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、映像系入力ソースの映像と、音楽系入力ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です。例えば、美しい景色をビデオで見ながら、クラシック音楽を楽しめます。

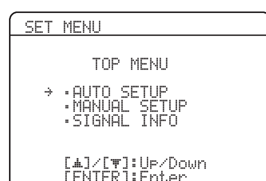
リモコンの入力選択キー（③）を押して、映像系ソースを選んでから、音楽系ソースを選ぶ。



入力信号情報を表示する

入力信号のフォーマット、サンプリング周波数、チャンネル数、ビットレートやフラグなどの情報を表示します。

1 **④AMP キーを押してから㉑MENUキーを押す。**
SET MENU 画面が表示されます。



2 **⑦▽ キーを繰り返し押して「SIGNAL INFO」を選び、⑦ENTER キーを押す。**
入力信号の音声情報が表示されます。

3 **⑦◁ / ▷ キーを押して、音声情報と映像情報を切り替える。**

4 **㉑MENU キーを押して、終了する。**

■ 音声情報

表示	説明
FORMAT	フォーマットを表します。本機がデジタル信号を認識できないときは、自動的にアナログ入力に切り替わります。
SAMPLING	アナログ信号をデジタル信号化するときの、１秒あたりのサンプル数を表します。
CHANNEL	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント／サラウンド／LFE)。例えば、入力信号にフロント３チャンネル、サラウンド２チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。
BITRATE	入力信号の１秒あたりのデータ量を表します。
FLAG	ドルビーデジタル、DTS、PCM に含まれている、自動的にデコーダー（「サラウンド EX」など）を切り替えるための識別信号を表します。

ご注意

本機が情報を正しく表示できない場合は、「－－－」と表示されます。

■ 映像情報

表示	説明
HDMI SIGNAL	映像入力信号と、HDMI OUT 端子から出力する映像信号を表します。
HDMI RES.	入力信号（HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度を表します。
HDMI ERROR（エラー発生時のみ）	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラーを表します。

ご注意

本機が情報を正しく表示できない場合は、「－－－」と表示されます。

HDMI ERROR

メッセージ	原因
DEVICE OVER	制限台数を超える HDMI 機器が接続されています。
HDCP ERROR	HDCP の認証に失敗しました。
OUT OF RES.	HDMI 出力信号の解像度がテレビの許容範囲を超えています。

一定時間後に自動的にスタンバイにする（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。

④AMP キーを押してから ㉘SLEEP キーを繰り返し押して時間を設定する。

㉘SLEEP キーを押すごとに、下記のように設定が切り替わります。



時間を選んでいるあいだは、フロントパネルディスプレイに SLEEP インジケーターが点滅します。SLEEP インジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了し、音場プログラム表示に戻ります。



- スリープタイマーを解除するには、④AMP キーを押してから、フロントパネルディスプレイに「SLEEP OFF」と表示されるまで ㉘SLEEP キーを繰り返し押してください。
- 以下の操作をすると、スリープタイマーは解除されます。
  - リモコンの ⑱STANDBY キーを押す
  - 本体の Ⓐ STANDBY/ON スイッチを押す
  - 電源コードを抜く

基本操作

音場プログラムについて

本機は２チャンネルソースやマルチチャンネルソースのほぼすべてをマルチチャンネル音声で楽しめる、多彩なデコーダーを装備しています。

Ⓝ PROGRAM ◁ / ▷ キーを押す（または④AMP キーを押してから ⑪PROG ◁ / ▷ キーを繰り返し押す）。

選んだ音場プログラムの名前がフロントパネルディスプレイ、およびモニターに表示されます。

ご注意

・入力ソースを選ぶと、本機は前回その入力ソース選択時に選んでいた音場プログラムを自動的に呼び出します。
・MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません（30 ページ）。
・入力ソースが 48kHz を超えるサンプリング周波数の PCM 信号の場合、「STRAIGHT」モードが適用されます。



音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

音場プログラムガイド

カテゴリー	プログラム	特長
MUSIC（ミュージック）	Pop（ポップ）／ Rock（ロック）	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器の生々しさとリズム楽器のノリを重視しつつ、広大なライブ会場の空間を再現します。
	Hall（ホール）	クラシック、管弦楽などの音楽再生向けの音場です。ミュンヘンにある大規模なコンサートホールのデータを使用しています。繊細な美しい響きと、落ち着いた雰囲気が特長です。
	Jazz（ジャズ）	ジャズ、フュージョンなどの音楽再生向けの音場です。ニューヨークのある有名なライブハウスのデータを使用しています。明瞭な響きが特長です。
ENTERTAINMENT（エンターテインメント）	Game（ゲーム）	迫力と臨場感のある音響効果でゲームが楽しめます。プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。
	TV Sports（スポーツ）	ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感出来ます。
MOVIE（ムービー）	Movie（ムービー） Spacious（スペイシャス）	壮大なスケール感の演出を重視した、映画向けの音場です。ワイド画面にマッチする広大な空間表現と微小な効果音から迫力の大音響までダイナミックレンジの広い音場感が特長です。
	Movie（ムービー） Dramatic（ドラマティック）	音響効果の立体感を重視した、映画向けの音場です。控えめな響きでありながら、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。
STEREO（ステレオ）	2ch（チャンネル） Stereo（ステレオ）	前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な音場です。
	5ch（チャンネル） Stereo（ステレオ）	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長の音場プログラムです。ホームパーティーの BGM に最適です。セットメニューの設定により、最大５つのスピーカーから音が出力されます。
MUSIC（ミュージック） ENHANCER（エンハンサー）	2ch（チャンネル） Enhancer（エンハンサー）	２チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。
	5ch（チャンネル） Enhancer（エンハンサー）	５チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。

ご注意

本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。

■ 2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ（サラウンドデコードモード）

2 チャンネルソースをマルチチャンネル化してサラウンド再生できます。

④AMP キーを押してから ㉕ SUR. DECODE キーを繰り返し押して、デコーダーを選ぶ。

選べるデコーダーについては、下の表をご覧ください。

デコーダー	説明
Pro Logic	ドルビープロロジックデコーダーです。すべてのソースに適しています。
PLII Movie	ドルビープロロジック II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
PLII Music	ドルビープロロジック II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。
PLII Game	ドルビープロロジック II デコーダーです。ゲームに適しています。

■ サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

サラウンドスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマ DSP モードにより、臨場感あふれる音場再生を楽しめます。バーチャルシネマ DSP モードでは、仮想スピーカーを創り出すことによって自然な音場を再現します。「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すれば（49 ページ）、CINEMA DSP 音場プログラム（34 ページ）を選んでいるときは自動的にバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

ご注意

以下の場合は、「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定しても（49 ページ）、バーチャルシネマ DSP モードには切り替わりません。
- －MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を入力選択しているとき（30 ページ）
- －ヘッドホンを PHONES 端子に接続しているとき
- －5ch Stereo を選んでいるとき

■ ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ™）

サイレントシネマ™ では、ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネルソースを、ヘッドホンで楽しめます。CINEMA DSP 音場プログラム（34 ページ）を選んでいるときにヘッドホンを PHONES 端子に接続すれば、自動的にサイレントシネマ™ モードに切り替わります。サイレントシネマ™ モードで再生しているあいだは、フロントパネルディスプレイの SILENT CINEMA インジケーターが点灯します。

ご注意

MULTI CH INPUT 端子に接続した機器は、サイレントシネマ™ モードで再生できません（30 ページ）。

■ 音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードでは、2チャンネルソースをフロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、ソースを適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

ⓅSTRAIGHT キー（または ④AMP キーを押してから⑫STRAIGHT キー）を押して、フロントパネルディスプレイに「STRAIGHT」を表示させる。

ストレートモードを解除するには、ⓅSTRAIGHT キー（または ④AMP キーを押してから ⑫ STRAIGHT キー）を押して、フロントパネルディスプレイの「STRAIGHT」表示を消します。

基本操作

■ 音場パラメーターを変更する

音場プログラムやサラウンドデコードモード、コンプレストミュージック・エンハンサーモードは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場パラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果をアレンジできます。

1 入力ソースを再生しているときに、④AMP キーを押してから ㉗ PARAMETER キーを押す。

2 ⑦∆ / ∇ キーを繰り返し押して、パラメーターを変更するプログラム／モードを選ぶ。

3 ⑦◁ / ▷ キーを押して、設定値を変更する。

ご注意

セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に「OFF」に設定してください (57 ページ)。



初期設定値は、太字で表しています。

Pop/Rock、Hall、Jazz、Game、TV Sports、Movie Spacious、Movie Dramatic 用

エフェクト量の調節 DSP LEVEL

機能： エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境にあわせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。

選択項目： MIN（弱）、**MID**（中）、MAX（強）

2ch Enhancer、5ch Enhancer 用

レベルの調節 EFCT LVL

機能： 高音域／低音域を拡張するレベルを調節するパラメーターです。「LOW」にすると効果レベルは弱くなり、「HIGH」にすると強くなります。

選択項目： LOW、**HIGH**

Pro Logic II Music 用

広がり感の調節 PANORAMA

機能： フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント左／右の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得られます。

選択項目： ON、**OFF**

音場レベル差の調節 DIMENSION

機能： フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。

可変範囲： －３～**STD**（標準）～＋３

センター音声広がり感の調節 CT WIDTH

機能： センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けられます。「0」にするとセンターのみ、「7」にするとフロント左／右のみからセンター音声が出力されます。

可変範囲： ０～７（初期設定：**3**）

その他の音声機能

原音に忠実な音質で再生する（ダイレクトモード）

入力ソースを原音に忠実な高品質音声で再生します。ダイレクトモードをオンにすると、音声入力信号を最小限の回路構成で再生します。

Ⓠ DIRECT キー（または ④AMP キーを押してから ⑬DIRECT キー）を押して「DIRECT」を選ぶ。

ご注意

「TONE CONTROL」と「SOUND MENU」の設定（スピーカーレベル設定を除く）は機能しません。



ダイレクトモードで再生中に入力切り替えや音量調節などの操作をすると、フロントパネルディスプレイが数秒間だけ点灯します。

音色を調節する（トーンコントロール）

フロント左／右スピーカーまたはヘッドホン（接続時のみ）の低音域と高音域のバランスを調節します。



設定はスピーカー用とヘッドホン用で別々に保存されます。

1 Ⓜ TONE CONTROL キーを繰り返し押して、低音域（BASS）または高音域（TREBLE）を選ぶ。

2 Ⓝ PROGRAM ◁ / ▷ キーを繰り返し押して、低音域（BASS）または高音域（TREBLE）の音色を調節する。

ご注意

・音色を極端に調節した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
・ダイレクトモードで再生しているときや MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているとき（30 ページ）は音色を調節できません。

スピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーの音量を調節します。MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているときも調節できます。

ご注意

「AUTO SETUP」や「SPEAKER LEVEL」で各スピーカーの音量を調節している場合は、設定が上書きされます。

1 リモコンの ④AMP キーを押してから、⑥LEVEL キーを押す。

2 ⑦△ / ▽ キーを繰り返し押して、調節するスピーカーを選ぶ。

表示	調節するスピーカー
FRONT L	フロント左スピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SWFR	サブウーファー
SUR. L	サラウンド左スピーカー
SUR. R	サラウンド右スピーカー



・一度リモコンの ⑥LEVEL キーを押してから、⑦△ / ▽ キーを押してスピーカーを選ぶこともできます。
・各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。

3 ⑦◁ / ▷ キーを押して、音量を調節する。

・音量を上げるには、⑦▷ キーを押します。
・音量を下げるには、⑦◁ キーを押します。

調節範囲：－ 10.0dB ～＋ 10.0dB

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

ナイトリスニングモードでは、小音量でもセリフなどは明瞭に、大きな効果音は抑えて再生します。

1 ④AMP キーを押してから ㉖NIGHT キーを繰り返し押して、「NIGHT:CINEMA」または「NIGHT:MUSIC」を選ぶ。

選択項目： NIGHT:CINEMA、NIGHT:MUSIC、OFF

- NIGHT:CINEMA（映画用）：大きな効果音を抑え、セリフなどは聴きとりやすくします。
- NIGHT:MUSIC（音楽用）：音の高低、音色に限らず、どんな音も聴きとりやすくします。
- OFF：ナイトリスニングモードをオフにします。



ナイトリスニングモードで再生しているあいだは、フロントパネルディスプレイの NIGHT インジケーターが点灯します。

2 「NIGHT:CINEMA」または「NIGHT:MUSIC」が表示されている間に ⑦◁ / ▷ キーを押して、効果レベルを選ぶ。

Effect.Lvl:MID

選択項目： MIN、**MID**、MAX

- MIN：大きな効果音を少し抑えて再生します。
- MID：大きな効果音を適度に抑えて再生します。
- MAX：大きな効果音をできるだけ抑えて再生します。



NIGHT：CINEMA（映画用）と NIGHT：MUSIC（音楽用）の効果レベルは、それぞれ独立して保存されます。

ご注意

- 以下の場合は、ナイトリスニングモードで再生できません。：
  - ダイレクトモード（37 ページ）で再生しているとき
  - MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているとき（30 ページ）
  - ヘッドホンを接続しているとき
- 入力ソースやサラウンド音場の設定により、効果に違いが生じる場合があります。

FM ／ AM 放送を聴く

放送局はオート選局とマニュアル選局の 2 つの方法で選べます。オート選局は、電波が強く、受信を妨げる障害物がない場合に効果的です。受信したい放送局の電波が弱い場合は、マニュアルで選局してください。AM ／ FM 放送局を 40 局まで登録（プリセット）できます。

自動的に選局する場合（オート選局）

オート選局は、電波が強く、受信を妨げる障害物がない場合に効果的です。

1　フロントパネルディスプレイに「TUNER」が表示されるまで、Ⓡ INPUT ◁ / ▷ キーを繰り返し押す。

2　Ⓓ BAND キーを押して、バンド（FM または AM）を選ぶ。

3　Ⓘ TUNING AUTO/MAN'L キーを押して、フロントパネルディスプレイに「AUTO」インジケーターを点灯させる。



フロントパネルディスプレイにコロン（：）が表示されている場合は、オート選局ができません。Ⓑ PRESET/TUNING キーを押してコロン（：）を消してください。

4　Ⓕ PRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを一度押して、オート選局を開始させる。

放送局を受信すると、その局の周波数が表示され、TUNED インジケーターが点灯します。



手動で選局する場合（マニュアル選局）

聴きたい放送局をうまく受信できないときは手動で選局してください。

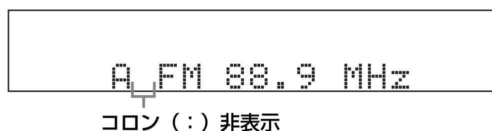
ご注意

FM 放送局を手動で受信すると自動的にモノラル受信が行われて、電波が弱い場合でもよりよい音声をお楽しみいただけます。

1　フロントパネルディスプレイに「TUNER」が表示されるまで、Ⓡ INPUT ◁ / ▷ キーを繰り返し押す。

2　Ⓓ BAND キーを押して、バンド（FM または AM）を選ぶ。

3　Ⓘ TUNING AUTO/MAN'L キーを押して、フロントパネルディスプレイの「AUTO」インジケーターを消す。



フロントパネルディスプレイにコロン（：）が表示されている場合は、マニュアル選局ができません。Ⓑ PRESET/TUNING キーを押してコロン（：）を消してください。

4　Ⓕ PRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを押して、放送局の周波数に合わせる。



マニュアル選局しているときにキーを押し続ければ、サーチを継続できます。

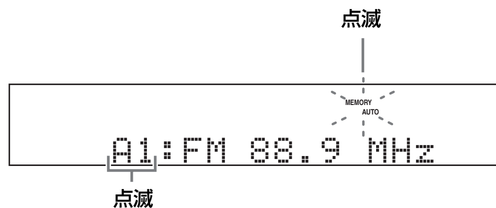
オートプリセットで登録する

電波の強い FM 放送局を、自動的に 40 局（8局× 5 グループ、A1 ～ E8）まで登録（プリセット）できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単な操作で選局できます。

1 **Ⓡ INPUT ⊲ / ⊳ キーを繰り返し押して、TUNER を入力選択する。**

2 **Ⓓ BAND キーを押して、「FM」を選ぶ。**

3 **Ⓖ MEMORY キーを 3 秒以上押し続ける。**
プリセット番号と MEMORY インジケーター、AUTO インジケーターが点滅します。約 5 秒後に、現在の周波数から高い周波数に向かってオートプリセットを開始します。



オートプリセットが完了すると、AUTO インジケーター、および MEMORY インジケーターが消灯します。



オートプリセットを開始するプリセット番号を指定できます。手順 3 を操作したあとに、Ⓔ A/B/C/D/E キーを押してから Ⓕ PRESET/TUNING ⊲ / ⊳ キーを繰り返し押して、最初のプリセット放送局を登録するプリセット番号を選んでください。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強い FM 放送局だけが登録されます。電波の弱い FM 放送局を登録したいときは、手動で放送局を受信したあと、手動で登録してください（「マニュアルプリセットで 登録する」右記参照）。

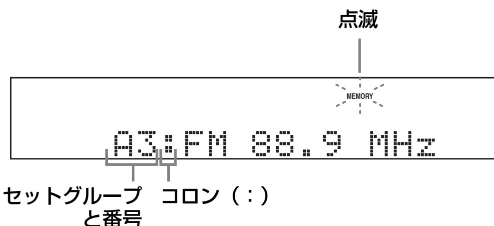
マニュアルプリセットで登録する

AM ／ FM 放送局を 40 局（8局× 5 グループ、A1 ～ E8）まで手動で登録（プリセット）できます。

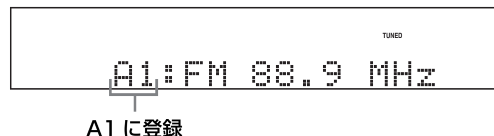
1 **放送局を受信する。**
受信方法については 39 ページ をご覧ください。

2 **Ⓖ MEMORY キーを押す。**
フロントパネルディスプレイに MEMORY インジケーターが約 30 秒間点滅します。

3 **MEMORY インジケーターが点滅しているあいだに、Ⓔ A/B/C/D/E キーと Ⓕ PRESET/TUNING/CH ⊲ / ⊳ キーを繰り返し押して、プリセット番号（1 ～ 8）とプリセットグループ（A ～ E）を選ぶ。**
フロントパネルディスプレイにコロン（：）が表示されていることをご確認ください。



4 **MEMORY インジケーターが点滅しているあいだに、Ⓖ MEMORY キー）を押す。**
バンドや周波数がプリセットグループとプリセット番号とともにフロントパネルディスプレイに表示されます。MEMORY が消灯します。



ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

プリセットした放送局を呼び出す

あらかじめプリセット（登録）した FM ／ AM 放送局を、プリセットグループとプリセットナンバーを指定することによって簡単に呼び出します

> 以下の操作を行う前に、③TUNER キーを押して、入力ソースを「TUNER」にしてください。

1　ⓔA/B/C/D/E キー（または ⑦ A/B/C/D/E ◁ / ▷ キー）を繰り返し押して、プリセットグループ（A ～ E）を選ぶ。
押すごとに、フロントパネルディスプレイにプリセットグループが順番に表示されます。

2　ⓕPRESET/TUNING ◁ / ▷ キー（または ⑧ PRESET/CH △ / ▽ キー）を押して、プリセット番号（1 ～ 8）を選ぶ。
プリセットグループとプリセット番号がバンドや周波数とともにフロントパネルディスプレイに表示されます。

E1:FM 88.9 MHz



プリセット番号（1～8）は、リモコンの数字ボタンで選ぶこともできます。

プリセットした放送局を入れ替える

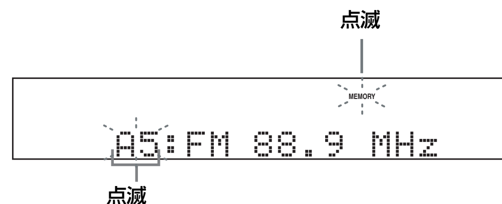
オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使って登録した放送局を入れ替えられます。
ここでは例として、「E1」（E= プリセットグループ、1= プリセット番号）に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1　ⓔA/B/C/D/Eキーとⓕ PRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを押して、「E1」を選ぶ。
このページ左の「プリセットした放送局を 呼び出す」をご覧ください。

2　ⓑPRESET/TUNING キーを 3 秒以上押し続ける。
フロントパネルディスプレイに「E1」、および MEMORY インジケーターが点滅します。



3　ⓔA/B/C/D/Eキーとⓕ PRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを押して、「A5」を選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「A5」、および MEMORY インジケーターが点滅します。



4　ⓑPRESET/TUNING キーをもう一度押す。
フロントパネルディスプレイに「EXCHANGE E1-A5」と表示され、プリセット放送局が入れ替わります。

基本操作

iPodを再生する

リアパネルのDOCK端子に接続したヤマハ製iPod用ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットすれば（19ページ）、iPodを本機のリモコンで操作したり、テレビ画面に表示されるメニューを見ながら操作したりすることができます。また、コンプレストミュージック・エンハンサーモードを選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3など）をダイナミックな音声で再生できます。

ご注意

- iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod miniに対応しています。
- iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、映像系ファイルの表示など一部の機能が使えない場合があります。



- フロントパネルディスプレイやテレビ画面に表示されるメッセージについては、「故障かな？と思ったら」のiPod欄をご覧ください（68ページ）
- 本機とiPodとの通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示され、DOCKインジケーターが点灯します。
- DOCK端子には、iPodのアナログ音声信号およびアナログ映像信号のみ入力されます。入力されたアナログ音声信号はAUDIO OUT (REC)端子からのみ出力されます。入力されたアナログ映像信号はVIDEO OUT端子、VIDEO MONITOR OUT端子から出力されます。

iPodを操作する

V-AUX/DOCKを入力選択すれば、iPodを操作できます。iPodは、テレビ画面に表示されるメニューを見ながら行う「メニュー表示モード」と、iPodの画面を見ながら行う「ノーマルモード」の２種類の方法で操作できます。

■ リモコン操作

以下の操作を行う前に、③**V-AUX/DOCK**キーを押してください。

	キー	機能
⑦	ENTER	選んだメニューに入ります。
	△	上のメニューにカーソルを移動します。
	▽	下のメニューにカーソルを移動します。
	◁	１つ前の表示に戻ります。
	▷	選んだメニューに入ります。
⑨	◁◁	巻き戻しします（長押し）。
	▷▷	早送りします（長押し）。
	I◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。
	▷▷I	次の曲の先頭にスキップします。
	□	再生を停止します。
	II	一時停止します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
	▷	再生します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
㉑	MENU	１つ前の表示に戻ります。
㉓	DISPLAY	メニュー表示モードに入る、または終了します。

■ ノーマルモードで操作する

ノーマルモードでは、テレビ画面にメニューを表示させずに、リモコンを使って基本的な操作（再生、停止、スキップなど）ができます。



- iPodに保存されている映像系のファイルも楽しめます（一部のモデルのみ）。
- iPod本体でも操作できます。

■ メニュー表示モードで操作する

本機とテレビを映像接続すれば、テレビ画面に表示されるメニューを見ながらリモコンを使ってさまざまな操作ができます。また、コンテンツの情報を見たり、お好みに合わせて設定を変更したりすることもできます。



- 「OPTION MENU」の「FL SCROLL」で、再生している曲のフロントパネルディスプレイでの表示方法を設定できます（56 ページ）。
- 「OPTION MENU」の「OSD-SOURCE」で、メニューや再生情報をテレビ画面に表示させたときの表示時間を設定できます（57 ページ）。

ご注意

- iPod 本体では操作できません。
- 本機が表示できない文字は「 _ 」（アンダーバー）で表示されます。
- 「Settings」項目は、テレビ画面に表示されるメニューでのみ変更できます。⑦ENTER キーを繰り返し押して、設定を変更してください。
- 映像系のファイルはメニュー表示モードでは選択できません。ノーマルモードで再生してください。

1 ③V-AUX/DOCK キーを押してから ㉓DISPLAY キーを押す。

メニュー画面がテレビに表示されます。



2 ⑦△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押してメニュー項目を選び、⑦ENTER キーを押して再生する。

選択項目：Playlists（プレイリスト）、Artists（アーティスト）、Albums（アルバム）、Songs（曲名）、Genres （ジャンル）、Composers（作曲者）、Settings（設定メニュー）

- Playlists > Songs
- Artists > Albums > Songs
- Albums > Songs
- Songs
- Genres > Artists > Albums > Songs
- Composers > Albums > Songs
- Settings > Shuffle、Repeat

シャッフル　Shuffle

曲やアルバムをランダムに再生します。
選択項目：Off、Songs、Albums

- ランダム再生しない場合は、「Off」を選んでください。
- 曲ごとにランダム再生する場合は、「Songs」を選んでください。
- アルバムごとにランダム再生する場合は、「Albums」を選んでください。



「Shuffle」が「Off」以外に設定されているときは、テレビ画面の右上に「⤮」が表示されます。

リピート　Repeat

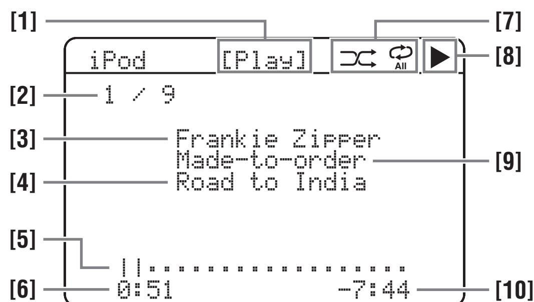
曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。
選択項目：Off、One、All

- リピート再生しない場合は、「Off」を選んでください。
- 曲ごとにリピート再生する場合は、「One」を選んでください。
- すべての曲をリピート再生する場合は、「All」を選んでください。



「One」または「All」を選んでいるときは、テレビ画面の右上に「🔂」、または「🔁」が表示されます。

■ 再生情報画面の表示



[1] 再生状態

[2] トラック番号／トラック数

[3] アーティスト名

[4] 曲名

[5] 進捗表示

[6] 経過時間

[7] シャッフル／リピート表示

[8] ▶（再生）、II（一時停止）、▶▶（早送り）、◀◀（巻き戻し）

[9] アルバム名

[10] 残り時間

基本操作

Bluetooth機器の再生を楽しむ

ヤマハ製 Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）を DOCK 端子に接続すれば、本機と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）をケーブルで接続することなく、Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを再生できます。再生する前に、Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器を「ペアリング」してください。

Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器をペアリングする

Bluetooth 機器を Bluetooth アダプターを使って本機で再生する前に、「ペアリング」を行います。本機能をはじめて使う場合や、ペアリングしたデータを消去した場合は、必ず行ってください。「ペアリング」とは、Bluetooth で通信するために Bluetooth 機器を登録することを指します。



- ペアリングは、Bluetooth 機器と Bluetooth アダプターをはじめて使うときのみ必要です。
- Bluetooth で通信できるようにするには、本機および Bluetooth 機器の両方でペアリングしてください。必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

ペアリングには以下の２種類の方法があります。

– セットメニューの「START PAIRING」(58 ページ)
– クイックペアリング

■ セットメニューでのペアリング

モニター表示を見ながらペアリング操作を行います。「INPUT MENU」から「START PAIRING」を選択してください。詳しくは 58 ページをご覧ください。

■ クイックペアリング

セキュリティー確保のためペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1 ⓇINPUT◁ / ▷ キーを繰り返し（または ③V-AUX/DOCK キーを）押して、V-AUX を入力選択する。

2 ペアリングしたいBluetooth機器の電源をオンにする。

3 ⒹBAND キー （または ⑥BAND キー）を、約 3 秒間押し続ける。

フロントパネルディスプレイに「Searching...」と表示され、DOCK が点滅します。

ご注意

Bluetooth アダプターが DOCK 端子に接続されていない場合は、フロントパネルディスプレイに「No BT Adapter」と表示されます。

4 Bluetooth機器がBluetoothアダプターを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器が Bluetooth アダプターを認識している場合は、Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

5 Bluetooth アダプターを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合は、フロントパネルディスプレイに「Completed」と表示されます。

ご注意

ヤマハ製 Bluetooth アダプターは８台までの Bluetooth 機器とペアリングできます。９台目の機器が正しくペアリングされ、ペアリングデータが登録された場合、最初にペアリングした機器のデータは消去されます。

Bluetooth 機器を再生する

1 ⓇINPUT◁ / ▷ キーを繰り返し（または ③V-AUX/DOCK キーを）押して、V-AUX を入力選択する。

2 Bluetooth 機器の再生を開始する。

接続した Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器を認識すると、フロントパネルディスプレイに「BT connected」と表示され、DOCK インジケーターが点灯します。

- ⑦ENTER キーを押すと、接続した Bluetooth アダプターは最後に接続していた Bluetooth 機器を検索し、接続します。Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器を検索できなかった場合は、フロントパネルディスプレイに「Not found」と表示されます。
- Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器の接続を解除するには、⑧RETURN キーを押してください。

外部機器で録音／録画する

録音される音声の音量の調節や操作は、録音機器側で行います。詳しくは録音機器の取扱説明書をご覧ください。

警告
DTS 信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS 信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。DTS-CD または DTS DVD の音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。DTS-CD の音声を録音する場合は、DTS デコーダー内蔵の DVD プレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。詳しくは、お使いのプレーヤーに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音／録画できません。
- トーンコントロール（37 ページ）や音量の設定、スピーカーの音量（37 ページ）、音場プログラム（34 ページ）の効果は、録音される音声に影響しません。
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声は録音できません。
- DIGITAL INPUT 端子に入力したデジタル信号は、録音用のアナログ AUDIO OUT (REC) 端子から出力されません。同様に、AUDIO IN 端子から入力したアナログ信号を DIGITAL OUTPUT 端子から出力することもできません。アナログ信号を録音する場合は、再生する機器をアナログ接続してください。同様に、デジタル信号を録音する場合は、再生する機器を同軸デジタルまたは光デジタル接続してください。
- 再生している機器の音声／映像を、同じ機器で録音／録画できません。
- DOCK 端子から入力した音声信号は、AUDIO OUT (REC) 端子からのみ録音できます。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。



録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」、「試し録画」をしてください。

コピー防止機能のあるビデオを再生すると、画像が乱れる場合があります。

1 **本機と本機に接続されているすべての機器の電源をオンにする。**

2 **ⓡINPUT ⊲ / ⊳ キーを繰り返し（または、入力選択キー（③））を押して、録音／録画したい機器を選ぶ。**

3 **録音／録画する音声や映像を再生する、または FM ／ AM 放送局を選ぶ。**

4 **録音／録画機器を操作して、録音／録画を開始する。**

セットメニューで本機を設定する

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更できます。お使いの視聴環境にあわせて設定を変更してください。

■ 自動設定　AUTO SETUP

お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します（「スタートアップガイド」9 ページ）。

■ 手動設定　MANUAL SETUP

以下の項目を手動で設定します。

音の設定　1 SOUND MENU

メニュー	機能	ページ
A)SPEAKER SET	ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。	48
B)SP LEVEL	各スピーカーからの出力レベルを設定します。	50
C)SP DISTANCE	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。	50
D)CENTER GEQ	グラフィックイコライザーを使って、センタースピーカーの音色を調節します。	51
E)LFE LEVEL	ドルビーデジタル、DTS および AAC での LFE（低域効果音）信号の再生レベルを調節します。	51
F)DYNAMIC RANGE	ドルビーデジタルおよび DTS 再生時のダイナミックレンジを調節します。	52
G)AUDIO SET	ミュート時の音量、音声と映像のずれの補正、最大音量や電源オン時の音量を設定します。	52
H)HDMI SET	HDMI 入力信号の出力方法を設定します。	53

入力設定　2 INPUT MENU

メニュー	機能	ページ
A)I/O ASSIGNMENT	使用する機器が、本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	54
B)INPUT RENAME	モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示する入力ソース名を変更します。	55
C)VOLUME TRIM	各入力ソースの音声出力レベルを調節します。	55
D)DECODER MODE	電源を入れたときに再生するデジタル信号を設定します。	55
E)MULTI CH SET	バックグラウンドビデオ機能で MULTI CH INPUT 端子からの音声と一緒に再生を楽しむ映像ソースを選択します。	56

その他の設定 3 OPTION MENU

メニュー	機能	ページ
A)DISPLAY SET	フロントパネルディスプレイの明るさなどを調節します。	56
B)MEMORY GUARD	変更した設定値を保護します。	57
C)AUDIO SELECT	音声信号を入力する端子を設定します。	57
D)PARAM. INI	音場パラメーターを初期設定に戻します。	58
E)BLUETOOTH SET	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器のペアリングを開始します。	58

■ 信号の情報 SIGNAL INFO

音声／映像信号の情報を表示します（32 ページ）。

セットメニューの操作手順

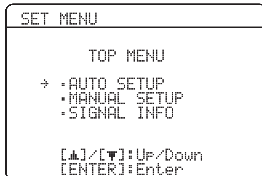
操作にはリモコンを使います。



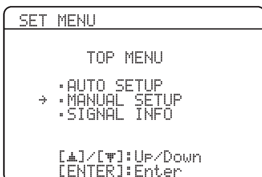
再生中でもセットメニューを操作できます。

1 ④AMP キーを押してから ㉑MENU キーを押して、「SET MENU」に入る。

モニターに SET MENU 画面が表示されます。

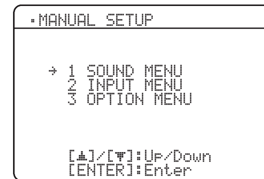


2 ⑦△ / ▽ キーを押して、「MANUAL SETUP」を選ぶ。



3 ⑦ENTER キーを押して、「MANUAL SETUP」に入る。

モニターに MANUAL SETUP 画面が表示されます。



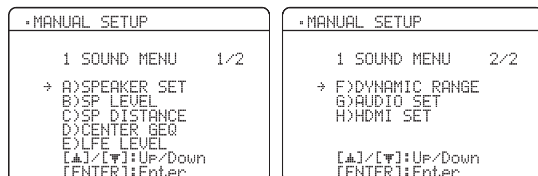
4 ⑦◁ / ▷△ / ▽ / ◁ / ▷ キーと ⑦ENTER キーを押して、パラメーターを選び、設定値を変更する。

- △ / ▽ キーを押して、変更したいメニューまたは、パラメーターを選びます。
- ◁ / ▷ キーを押して、パラメーターの設定値を変更します。
- ⑦ENTER キーを押して、メニューに入ったり、パラメーターの設定値をを確定します。
- ⑧RETURN キーを押して、ひとつ前のメニューに戻ります。

5 ㉑MENU キーを押して、セットメニューを終了する。

音声出力の設定を変更する（1 SOUND MENU）

音質や音色など音声に関する様々な設定を手動で調節したり、音声と映像のずれを補正します。



■ スピーカーの設定 A)SPEAKER SET

スピーカーに関する基本的な設定を手動で変更します。

FRONT B の用途 FRONT B

FRONT B 端子に接続したスピーカーの用途を設定します。
選択項目：FRONT、ZONE B
初期設定：FRONT



メインリスニングルームに設置する場合：
「FRONT」を選択します。本体の SPEAKERS キーでスピーカー A と B を使い分けてください。

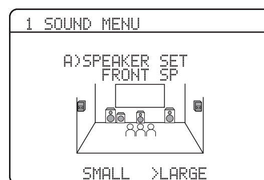
別の部屋（ルーム B）に設置する場合：
「ZONE B」を選択します。本体の SPEAKERS A/B/OFF キーでスピーカー A の出力をオフ、スピーカー B の出力をオンにすると、メインリスニングルームに設置しているすべてのスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

- 「ZONE B」に設定した場合、本機の PHONES 端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカー B の両方から音声が出力されます。
- 「ZONE B」に設定し、スピーカー A をオフ、スピーカー B をオンにした場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマ DSP が選択されます。

フロントスピーカー FRONT SP

選択項目：SMALL（小）、LARGE（大）
初期設定：LARGE



ウーファーの口径が 16cm 未満のフロントスピーカーを使用する場合：
「SMALL」を選択します。

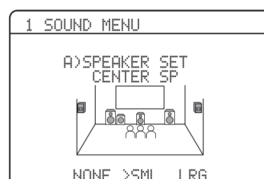
ウーファーの口径が 16cm 以上のフロントスピーカーを使用する場合：
「LARGE」を選択します。

ご注意

「LFE/BASS OUT」が「FRNT」に設定されている場合は、「LARGE」のみ選択できます。また、「SMALL」に設定している場合でも、「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に変更すると、設定は自動的に「LARGE」に変更されます。

センタースピーカー CENTER SP

選択項目：NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）
初期設定：SML



ウーファーの口径が 16cm 未満のセンタースピーカーを使用する場合：
「SML」を選択します。

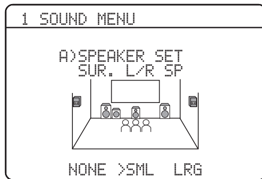
ウーファーの口径が 16cm 以上のセンタースピーカーを使用する場合：
「LRG」を選択します。

センタースピーカーを使用しない場合：
「NONE」を選択します。センターチャンネル信号は、フロント左／右スピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

サラウンド左／右スピーカー　SUR. L/R SP

選択項目： NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）

初期設定： SML



ウーファーの口径が16cm未満のサラウンド左／右スピーカーを使用する場合：
「SML」を選択します。

ウーファーの口径が 16cm 以上のサラウンド左／右スピーカーを使用する場合：
「LRG」を選択します。

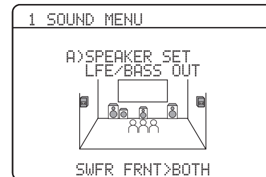
サラウンド左／右スピーカーを使用しない場合：
「NONE」を選択します。この設定にすると、自動的にバーチャルシネマ DSP が選択され、サラウンド左／右チャンネル信号はフロント左／右スピーカーにそれぞれ振り分けられます。

LFE/ 低音域成分の出力　LFE/BASS OUT

LFE 信号や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。LFE 信号とは、ドルビーデジタルや DTS、AACなどの音声に含まれる120Hz以下の低域効果音のことです。

選択項目： SWFR（サブウーファー）、FRNT（フロント）、BOTH（両方）

初期設定： BOTH



サブウーファーを接続して、自然な再生を楽しみたい場合：
「SWFR」に設定します。LFE 信号と、「SPEAKER SET」で「SML（SMALL）」に設定した各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。

サブウーファーを接続していて、より豊かな低音を楽しみたい場合：
「BOTH」に設定します。LFE 信号と、「SPEAKER SET」で「SML」に設定した、フロント左／右以外の各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。フロント左／右チャンネルの低音域は、「FRONT SP」の設定にかかわらずフロント左／右スピーカーとサブウーファーから出力されます。CD を再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などに設定すると効果的です。

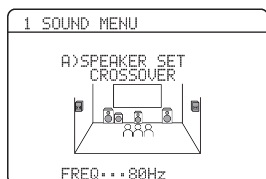
サブウーファーを接続しない場合：
「FRNT」に設定します。LFE 信号とフロント左／右チャンネル、および「SPEAKER SET」で「SML」に設定した各チャンネルの低音域がフロント左／右スピーカーから出力されます。

低音域成分クロスオーバー CROSSOVER

「SPEAKER SET」(48 ページ)で「SML (SMALL)」、または「NONE」に設定した各スピーカーから出力する低音域成分の下限周波数を設定します。設定よりも低い周波数信号は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

選択項目: 40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

初期設定: 80Hz

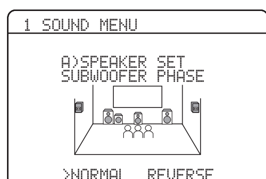


サブウーファーの位相 SUBWOOFER PHASE

低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を設定します。

選択項目: NORMAL(正相)、REVERSE(逆相)

初期設定: NORMAL



NORMAL:サブウーファーの位相を逆転しません。
REVERSE:サブウーファーの位相を逆転します。

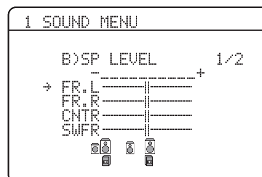
■ スピーカーの音量 B)SP LEVEL

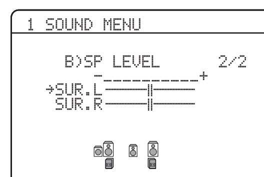
それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。

可変範囲: − 10.0dB 〜+ 10.0dB

可変ステップ: 1.0dB

初期設定: 0dB





SP LEVEL	スピーカー
FL	フロント左スピーカー
FR	フロント右スピーカー
C	センタースピーカー
SWFR	サブウーファー
SUR.L	サラウンド左スピーカー
SUR.R	サラウンド右スピーカー

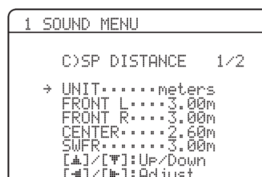
ご注意

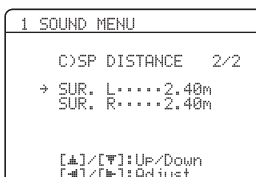
各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。

■ スピーカーの距離 C)SP DISTANCE

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション(視聴位置)に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。

「SPEAKER SET」の設定により、選択できるスピーカー項目は変化します。





距離の単位設定　UNIT

選択項目：meters（m）、feet（ft）

初期設定：meters

meters （m）：スピーカーの距離をメートルで表示します。
feet (ft)：　スピーカーの距離をフィートで表示します。

スピーカーの距離
可変範囲：0.30 ～ 24.00m（1.0 ～ 80.0ft）
可変ステップ：0.10m（0.5ft）
初期設定：
FRONT L ／ FRONT R ／ SWFR：3.00m（10.0ft）
CENTER：2.60m（8.5ft）
SUR. L ／ SUR. R：2.40m（8.0ft）

選択項目	スピーカー
FRONT L	フロント左スピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SWFR	サブウーファー
SUR. L	サラウンド左スピーカー
SUR. R	サラウンド右スピーカー

ご注意

各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。

■ センタースピーカーイコライザー D)CENTER GEQ

各周波数帯 (100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHz) のレベルを手動で調節して、センタースピーカーの音色をフロント左スピーカーに合わせます。テストトーンまたは出力している音声を使って、センターチャンネルのグラフィックイコライザーの値を調節します。

可変範囲： − 6.0dB ～ +6.0 dB

可変ステップ：0.5 dB

初期設定： 0 dB

```
1 SOUND MENU
    D)CENTER GEQ
    TEST   >OFF  ON
  → 100Hz ･･･|･･･     0dB
    300Hz ･･･|･･･     0dB
      1kHz ･･･|･･･     0dB
      3kHz ･･･|･･･     0dB
    10kHz ･･･|･･･     0dB
    [▲]/[▼]:Up/Down
    [◀]/[▶]:Adjust
```

テストトーン　TEST

「CENTER GEQ」の各項目を調節するときに、テストトーンを出力します。

選択項目：OFF、ON

初期設定：OFF

OFF：テストトーンを出力しません。
ON：　テストトーンを出力します。

■ 低域効果音の音量調節 E)LFE LEVEL

ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号などに含まれる、LFE（低域効果音）の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。

可変範囲： − 20 ～ 0dB

可変ステップ：1dB

初期設定：0dB

```
1 SOUND MENU
    E)LFE LEVEL
  → SPEAKER･･････0dB
    HEADPHONE････0dB

    [▲]/[▼]:Up/Down
    [◀]/[▶]:Adjust
```

スピーカー用 SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

ヘッドホン用 HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

ご注意

「LFE/BASS OUT」の設定によっては、サブウーファーから音が出ない場合があります。

応用操作

■ ダイナミックレンジ F)DYNAMIC RANGE

ドルビーデジタル／ DTS 再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、3 段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。



スピーカー用 SPEAKER
スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

ヘッドホン用 HEADPHONE
ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

選択項目：MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）、

初期設定：MAX

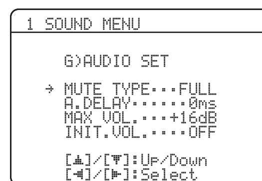
MIN：小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

STD：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MAX：入力された信号をそのままの迫力で再生するダイナミックレンジです。

■ 音声出力設定 G)AUDIO SET

音声と映像のずれを補正したり、AAC モノラル音声の出力を設定したりします。



ミュート時の音量 MUTE TYPE
ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目： FULL、－ 20dB

初期設定： FULL

FULL：完全に消音し、無音にします。

－ 20dB：いま聴いている音量よりも、20dB 下げて再生します。

音声のずれ補正 A.DELAY
液晶テレビやHD 対応テレビなどで、デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

可変範囲： 0 ～ 160ms

可変ステップ：1ms

初期設定：0ms

音量の上限 MAX VOL.

音量が間違って上がり過ぎないように、音量の最大値を設定します。例えば、「－ 5 dB」に設定しているとき、音量の可変範囲は－ 80.0dB から－ 5.0dB になります。初期設定値（＋ 16 dB）では、最大音量まで出力します。

可変範囲： － 30dB ～ +16dB

可変ステップ：5dB

初期設定： +16dB

ご注意

「MAX VOL.」の設定は「INIT. VOL.」の設定よりも優先されます。例えば、「MAX VOL.」を「－ 30dB」、「INIT. VOL.」を「－ 20dB」に設定しても、次回電源オン時の音量は自動的に「－ 30.0dB」に制限されます。

音量の初期値 INIT. VOL.

音量をオンにしたときの音量を設定します。

可変範囲：OFF、MUTE、－ 80dB ～ +16dB

可変ステップ：1dB

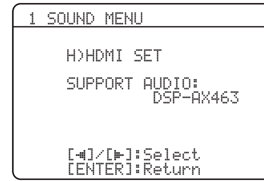
初期設定：OFF

ご注意

「MAX VOL.」の設定は「INIT. VOL.」の設定よりも優先されます。

■ HDMI 設定 H) HDMI SET

HDMI 音声入力信号を再生する機器を選択します。



HDMI 音声出力設定 SUPPORT AUDIO

HDMI IN 端子から入力した音声信号を、本機で再生するか、本機の HDMI OUT 端子に接続した機器で再生するかを選択します。

選択項目	機能
DSP-AX463	入力信号を本機で再生します。HDMI IN 端子に接続した HDMI 機器から入力した音声信号は、HDMI OUT 端子へ伝送しません。
Other	HDMI OUT 端子に接続した機器で再生します。

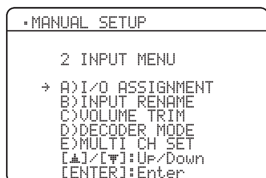
ご注意

- 「SUPPORT AUDIO」を「Other」に設定しているときでも、本機の電源がスタンバイのときは、HDMI 入力信号は HDMI OUT 端子に伝送されません。
- 本気に接続したモニターの仕様により、本機がモニターに接続できる HDMI 接続／映像信号は変化します。

応用操作

入力の設定を変更する (2 INPUT MENU)

入力端子の割り当てや入力信号などに関する設定を変更します。



■ 入力端子の割り当て

A)I/O ASSIGNMENT

本機が装備している入力端子は、それぞれに接続する外部機器が初期設定で割り当てられています。初期設定とは異なる機器を接続した場合に、接続した端子の割り当てを変更してください。割り当てを変更すれば、Ⓡ INPUT ◁ / ▷ キー（または入力機器選択キー (③)）による入力選択時に表示される機器名と、実際に選ばれる機器を一致させられます。

COAXIAL INPUT 端子 1 用

COAXIAL IN (1)

選択項目：（1）CD、MD/CD-R、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR
初期設定：MD/CD-R



OPTICAL INPUT 端子 2、3 用

OPTICAL IN (2)
OPTICAL IN (3)

選択項目：(2) CD、MD/CD-R、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR
(3) CD、MD/CD-R、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR
初期設定：（2）DTV/CBL
（3）DVD



OPTICAL OUTPUT 端子 4 用

OPTICAL OUT (4)

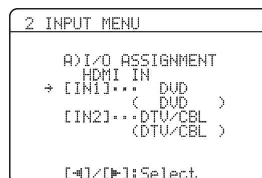
選択項目：(4) CD、MD/CD-R、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR
初期設定：MD/CD-R



HDMI 端子 1、2 用

HDMI IN [IN1]
HDMI IN [IN2]

選択項目：（1）DVD、DTV/CBL、V-AUX, DVR
（2）DVD、DTV/CBL、V-AUX, DVR
初期設定：（1）DVD
（2）DTV/CBL

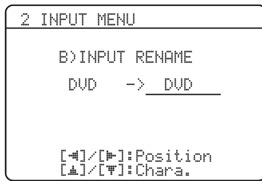


ご注意

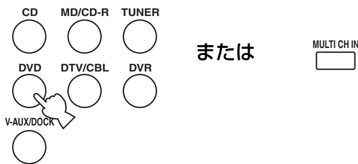
同じ種類の端子には、１つの機器を１回のみ割り当てられます。

■ 入力ソース名の変更 B)INPUT RENAME

モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更します



1 入力選択キー（③）または ⑭MULTI CH IN キーを押して、名前を変更したい入力を選ぶ。



2 ④AMP キーを押してから⑦◁ / ▷ キーを押して、変更する文字、またはスペースに、点滅している＿（アンダーバー）を合わせる。

3 ⑦△ / ▽ キーを押して文字を選び、⑦◁ / ▷ キーを押してアンダーバーの位置を移動する。

ご注意

- 最大 8 文字まで入力できます。
- ⑦▽ キーを押すと順番どおりに、⑦△ キーを押すと順番とは逆に文字が表示されます。
  A ～ Z、0～9、a ～ z、記号（#、*、－、+など）、スペース

4 入力ソースごとに手順 1 ～ 3 を繰り返す。

5 入力が終わったら、⑦ENTER キーを押し、入力ソース名の変更を終了する。

■ 音量差の補正 C)VOLUME TRIM

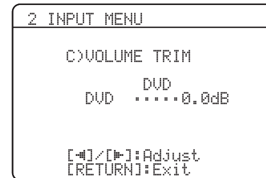
入力ソースによって異なる音量のばらつきを補正します。これにより、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

選択項目：CD、MD/CD-R、TUNER、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR、DOCK、MULTI CH

可変範囲： － 6.0 ～＋ 6.0dB

可変ステップ：1.0dB

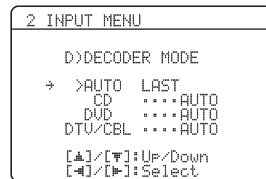
初期設定：0.0dB



ご注意

本機に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットしているときは、「DOCK」以外の設定は変更できません。

■ デコーダーモード選択 D)DECODER MODE



デコーダー選択設定

本機の電源をオンにしたときに、デジタル接続された外部機器から入力するデジタル信号を設定します。

選択項目： AUTO、LAST

初期設定： AUTO

AUTO：電源をオンにしたときに、下記入力ソース別の設定をすべて「AUTO」に戻します。

LAST： 前回電源をオフにしたときに入力していたデジタル信号を再生します。

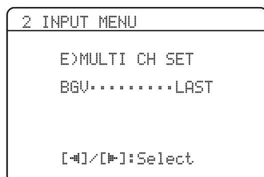
DTS デコーダー優先設定

選択項目：AUTO（自動的に音声入力信号を選びます）
DTS（DTS 信号に固定します。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません）
AAC（AAC 信号に固定します。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません）

初期設定：AUTO

応用操作

■ MULTI CH INPUT 端子設定
E)MULTI CH SET



バックグラウンドビデオ BGV

MULTI CH INPUT 端子に入力した音声を再生しているときに組み合わせて楽しむ映像系入力ソースを選びます。

選択項目： DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR、LAST

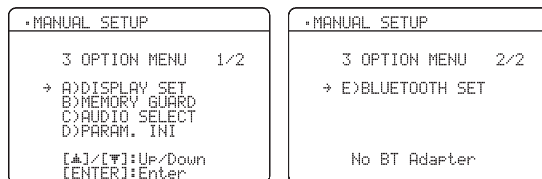
初期設定： LAST



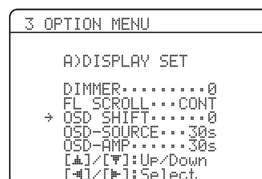
前回選んでいた映像系入力ソースを再生するには「LAST」を選択します。

その他の設定 (3 OPTION MENU)

その他のさまざまな設定を変更します。



■ 表示の設定 A)DISPLAY SET



画面の明るさ DIMMER

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。

可変範囲： －４～０

可変ステップ： １

初期設定： ０

- 表示を暗くするには、⑦◁ キーを押してください。
- 表示を明るくするには、⑦▷ キーを押してください。

フロントパネルディスプレイ表示設定（iPod） FL SCROLL

本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）にセットした iPod を再生するときに、14 文字を超える曲名のフロントパネルディスプレイへの表示方法を設定します。

選択項目： CONT、ONCE

初期設定： CONT

CONT：すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。

ONCE：すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。

表示画面の位置調節 OSD SHIFT
モニター画面表示の上下位置を調節します。

可変範囲：－5（下方）～+5（上方）

可変ステップ：1

初期設定：0

- 下に移動するには、⑦◁キーを押してください。
- 上に移動するには、⑦▷キーを押してください。

画面表示時間設定（iPod） OSD-SOURCE
メニュー表示モードでiPodを操作しているときのモニター画面の表示時間を設定します。

選択項目：ON、10s、30s

初期設定：30s

ON：　メニュー画面を継続して表示します。

10s：メニュー画面を10秒間表示します。

30s：メニュー画面を30秒間表示します。

画面表示時間設定（アンプ） OSD-AMP
本機のアンプ機能を操作しているときのモニター画面の表示時間を設定します。

選択項目：ON、10s、30s

初期設定：30s

ON：　モニター画面を継続して表示します。

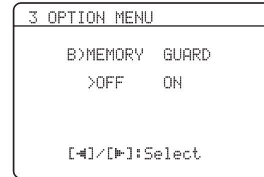
10s：モニター画面を10秒間表示します。

30s：モニター画面を30秒間表示します。

■ 設定の保護 B)MEMORY GUARD
誤操作による設定値の変更を防止します。

選択項目：OFF、ON

初期設定：OFF



OFF：設定を保護しません。

ON：以下の設定を保護します。
- 音場パラメーターの設定
- 「MEMORY GUARD」以外のセットメニューの設定
- スピーカーの音量設定
- 「SCENE」テンプレートの設定

ご注意

「ON」に設定すると、「MEMORY GUARD」以外のセットメニュー項目を設定、変更できません。

■ 入力モード初期値 C)AUDIO SELECT
本機の電源をオンにしたときに適用する入力モード（30ページ）を設定します。

選択項目：AUTO、LAST

初期設定：AUTO



AUTO：自動的に入力信号の種類を判別し、入力モードを決定します。

LAST：前回選んでいた入力モードの設定を適用します。

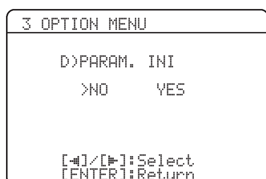
応用操作

■ 音場パラメーター初期化 D)PARAM. INI

変更した音場パラメーター（36 ページ）を、初期設定に戻します。

選択項目：NO、YES

初期設定：NO



NO：音場パラメーターを初期化しません。

YES：⑦ENTER キーを押して、音場パラメーターを初期化します。

ご注意

- 一度初期化すると、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- 音場サブプログラムごとに初期設定に戻すことはできません。
- 「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している場合は、初期設定に戻せません。

■ Bluetooth 設定 E)BLUETOOTH SET



ヤマハ製 Bluetooth アダプター（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）のペアリングを開始します。ペアリングについて詳しくは、「Bluetooth アダプターと Bluetooth 機器をペアリングする」（44 ページ）をご覧ください。

セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1 ⑦ENTER キーを押して、ペアリングを開始する。

ヤマハ製 Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器をサーチします。フロントパネルディスプレイに「Searching...」と表示されます。

2 Bluetooth機器がBluetoothアダプターを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器が Bluetooth アダプターを認識している場合は、Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

3 Bluetooth アダプターを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合は、「Pairing completed」と表示されます。



ペアリングをキャンセルするには、⑧RETURN キーを押してください。

4 ⑧RETURN キーを押して、「START PAIRING」の設定を終了する。

ご注意

- Bluetooth アダプターが Bluetooth 機器を検索できなかった場合は、「Not found」と表示されます。
- Bluetooth アダプターが本機に接続されていない場合は、「NO Bluetooth adapter」と表示されます。

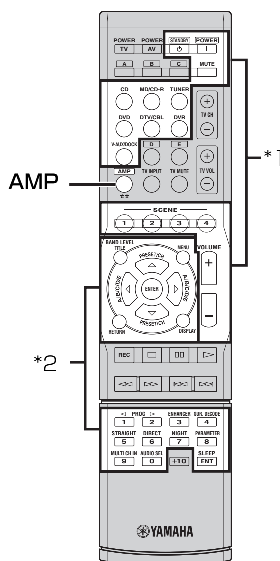
本機のリモコンでさまざまな機器を操作する

リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンでテレビを操作したり、本機に接続した他の機器を操作したりすることができます。リモコンコードの設定について詳しくは、「リモコンコードを設定する」（61 ページ）をご覧ください。

リモコンでさまざまな機器を操作する

■ 本機を操作する

④AMP キーを押してください。



ご注意

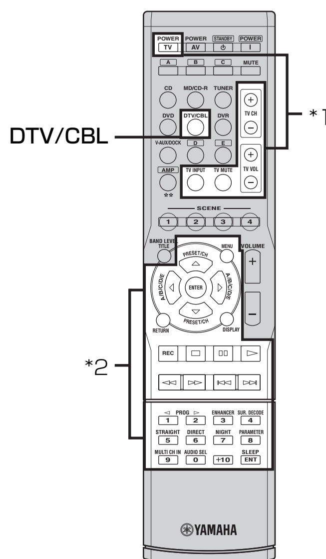
*1 常に本機を操作できます。

*2 ④AMP キーを押したときに、本機を操作できます。

■ テレビを操作する

③DTV/CBL キーを押して、テレビを操作します。

③DTV/CBL キーにテレビのリモコンコードを設定してください（61 ページ）。



ご注意

*1 ③DTV/CBL キーを押さなくても、テレビを操作できます。

リモコンキー	テレビ
TV POWER	テレビの電源を切り替えます。
TV CH +/ −	テレビのチャンネルを切り替えます。
TV VOL +/ −	テレビの音量を操作します。
TV INPUT	テレビの映像入力を切り替えます。
TV MUTE	テレビの音量を一時的に消音します。

*2 ③DTV/CBL キーを押したときのみ、テレビを操作できます。各キーの操作内容について詳しくは、次ページ表中の「テレビ」欄をご覧ください。



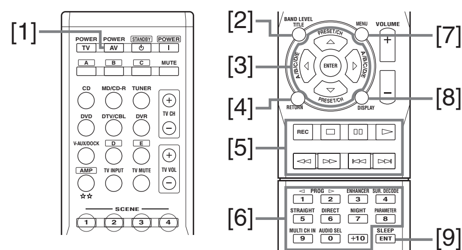
③DTV/CBL 以外の入力ソースボタンにも、テレビのリモコンコードを割り当てることができます。その場合、*1 と *2 のボタンはリモコンコードを割り当てたボタンが入力ソースとして選択されたときに使用することができます。

■ 他の機器を操作する

各入力選択キーに他の機器のリモコンコードを設定すれば（61 ページ）、本機のリモコンでそれらの機器を操作できます。他の機器を操作したいときは、操作したい機器の入力選択キーを押します。下の表は本機のリモコンにリモコンコードを設定したときに使用できるキーの機能一覧です。お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合は、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。



- 本機のリモコンは、13 台までの異なる機器を操作できるように、13 種類のコントロールエリアを装備しています。
- 入力選択キー（A ～ E）で操作したい機器を選ぶときは、本機の入力ソースを変更することなく登録した機器の操作ができます。



リモコンキー	DVD プレーヤー／レコーダー	ビデオデッキ	テレビ	LD プレーヤー	CD プレーヤー	MD ／ CD レコーダー	チューナー
[1] AV POWER	電源 *1	電源 *1	電源 *2	電源 *1	電源 *1	電源 *1	
[2] TITLE	タイトルメニュー						バンド
[3] PRESET/CH △	選択（上へ）	チャンネル選択（＋）	選択（上へ）				周波数（上へ）、プリセット番号選択（1～8）
PRESET/CH ▽	選択（下へ）	チャンネル選択（－）	選択（下へ）				周波数（下へ）、プリセット番号選択（8～1）
A/B/C/D/E ◁	選択（左へ）		選択（左へ）				プリセットグループ選択（E～A）
A/B/C/D/E ▷	選択（右へ）		選択（右へ）				プリセットグループ選択（A～E）
ENTER	メニュー決定		メニュー決定				
[4] RETURN	前の画面に戻る		前の画面に戻る				メモリー
[5] REC	ディスクスキップ（プレーヤー）録画（レコーダー）	録画	録画 *2		ディスクスキップ	録画	
▷	再生	再生	再生 *2	再生	再生	再生	
◁◁	巻戻し	巻戻し	巻戻し *2	巻戻し	巻戻し	巻戻し	
▷▷	早送り	早送り	早送り *2	早送り	早送り	早送り	
▯▯	一時停止	一時停止	一時停止 *2	一時停止	一時停止	一時停止	
I◁◁	スキップ（－）	スキップ（－）	スキップ（－）*2	スキップ（－）	スキップ（－）	スキップ（－）	
▷▷I	スキップ（＋）	スキップ（＋）	スキップ（＋）*2	スキップ（＋）	スキップ（＋）	スキップ（＋）	
□	停止	停止	停止 *2	停止	停止	停止	
[6] 1-9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	周波数（0～9）、プリセット局選択（1～8）
[7] MENU	メニュー		メニュー				
[8] DISPLAY	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示
[9] ENT	決定／インデックス表示	決定	決定	チャプター／時間表示	インデックス表示	インデックス表示	決定

ご注意

*1 機器に付属のリモコンに POWER キーがあるときのみ機能します。
*2 DVR に DVD レコーダーのリモコンコードが設定されているときは、入力を切り替えなくても DVD レコーダーを操作できます。

リモコンコードを設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他の機器を操作できます。リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。

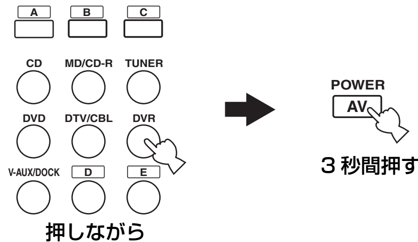
工場出荷時のリモコンコード設定

入力ソース	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
CD	CD	ヤマハ	5013
MD/CD-R	CD-R	ヤマハ	5001
TUNER	TUNER	ヤマハ	5007
DVD	DVD	ヤマハ	2000
DTV/CBL	—	—	—
V-AUX	TUNER	ヤマハ	5011
DVR	DVR	ヤマハ	2011
A	TUNER	ヤマハ	5012
B	TUNER	ヤマハ	5009
C	TUNER	ヤマハ	5017
D	—	—	—
E	—	—	—

ご注意

お使いのヤマハ製機器によっては、初期設定されているヤマハのリモコンコードでは操作できない場合があります。この場合は、別のリモコンコードをお試しください。

1 リモコンコードを設定したい入力選択キー（③）を押しながら、②AV POWER キーを３秒以上押す。



2 数字キー（0 ～ 9）（⑯）を押して、お使いになる機器のリモコンコード（4 桁の数字）を入力する。

登録が完了すると、フロントパネルディスプレイに「RemoteSetup:OK」と表示されます。失敗すると「RemoteSetup:NG」と表示されます。この場合はもう一度手順 1 からやり直してください。

ご注意

- お使いの機器のメーカーによっては複数のリモコンコードが記載されています。正しく操作できるコードをお使いください。
- 上記の手順 1 のあとに 30 秒以内にキーを押さないと、操作は取り消されます。この場合は手順 1 からやり直してください。

応用操作

本機の設定を変更する（ADVANCED SETUP）

フロントパネルディスプレイに表示されるメニューを見ながら、さまざまな項目を設定します。アドバンストセットアップメニューでは、本機の設定を初期設定に戻したり、リモコン ID を変更したりすることができます。お好みに合わせて、設定を変更してください。

ご注意

- アドバンストセットアップメニューの操作中は、本体の Ⓐ STANDBY/ON キー、Ⓝ PROGRAM ◁ / ▷ キー、Ⓟ STRAIGHT キー以外は機能しません。
- アドバンストセットアップメニューの操作中は、他の操作はできません。
- アドバンストセットアップメニューはフロントパネルディスプレイでのみ操作できます。

1 Ⓐ STANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

2 Ⓜ TONE CONTROL キーを押しながら、もう一度 Ⓐ STANDBY/ON キーを押す。
本機の電源がオンになり、アドバンストセットアップメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。

3 Ⓟ STRAIGHT キーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

4 Ⓐ STANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。
変更した設定が保存されます。


変更した設定は、次回電源を入れたときから有効になります。

■ 初期設定に戻す INIT.

変更した設定を初期設定に戻します。
選択項目：CANCEL、RESET
初期設定：CANCEL

- 初期設定に戻さない場合は、「CANCEL」を選んでください。
- すべてを初期設定に戻すには、「RESET」を選んでください。

ご注意

- 「SET MENU」の設定を含むすべての設定を初期設定に戻します。ただし、アドバンストセットアップメニューの設定は初期設定に戻りません。
- 次回電源をオンにしたときにすべての設定が初期設定に戻ります。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をスタンバイにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはⒶSTANDBY/ONスイッチ（または⑰POWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	21
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	10、11
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
使用中に突然電源が切れる	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	–
	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約1時間）、電源を入れなおしてください。	–
		音量を小さくしてください。	29
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	10、11
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	16～20
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体のⓇ**INPUT**⊲ / ⊳キーやリモコンの入力選択キー（③）、または⑭**MULTI CH IN**キーで、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	29、30
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	10
	音を出すフロントスピーカーが正しく選ばれていない。	本体のⓁ**SPEAKERS**スイッチでフロントスピーカーを正しく選んでください。	29
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	29
	消音されている。	リモコンの⑲**MUTE**キーを押して（または本体のⒿ**VOLUME**コントロールを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	31
	DTSソースを再生しているのに、セットメニュー「DECODER MODE」が「AAC」に設定されている。	「AUTO」または「DTS」に設定してください。	55
	AACソースを再生しているのに、セットメニュー「DECODER MODE」が「DTS」に設定されている。	「AUTO」または「AAC」に設定してください。	55
	入力モードの設定が入力信号の種類と合っていない。	入力信号の種類に合わせる、または「AUTO」に設定してください。	30
	HDMI接続している場合に、セットメニュー「HDMI SET」の「SUPPORT AUDIO」が本機に設定されていない。	「DSP-AX463」に設定してください。	53
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	–

症状	原因	対策	参照ページ
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンの⑲**MUTE**キーを押して（または本体のⒿ**VOLUME**コントロールを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	31
映像が出ない	本機とテレビが映像接続されていない。	本機のMONITOR OUT端子とテレビの映像入力端子を接続してください。	15
	本機と接続している外部機器が同じ種類の映像端子で接続されていない。	同じ種類の映像端子で接続してください。	14
		セットメニュー「VIDEO CONV.」を「ON」に設定してください。	
	テレビの入力が本機の映像に切り替えられていない。	入力を切り替えてください。	–
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–
モニター画面が表示されない	本機とテレビをHDMIのみで接続している。	HDMIに加え、D4／コンポジットのいずれか1種類の接続方法を選んで映像接続してください。	15
映像が乱れる	ビデオデッキの種類によっては、映像信号を変換すると画像が乱れる場合があります。		–
	特殊な信号を出す機器と接続し、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定し、同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。	
	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		–
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	16 ～ 20
	スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	音量のバランスを設定し直してください。	50
センタースピーカーからしか音声が出ない	シネマDSPプログラムでモノラル音声を再生すると、音声信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音はでません。	ほかの音場プログラムをお試しください。	34
エフェクトスピーカー（センター、サラウンド左／右）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	Ⓟ**STRAIGHT**キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	35
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	34
	フロントBスピーカーを使用しているときに、セットメニュー「SPEAKER SET」の「FRONT B」を「ZONE B」に設定している。	「FRONT」に設定してください。	48
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が小さい。	センタースピーカーの音量を調節してください。	50
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CENTER SP」を「NONE」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	48
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	34
サラウンド左／右スピーカーから音声が出ない	サラウンド左／右スピーカーの音量が小さい。	サラウンド左／右スピーカーの音量を調節してください。	50
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンド左／右スピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	49
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	Ⓟ**STRAIGHT**キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	35
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	34

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	49
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「FRNT」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください。	49
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		–
ドルビーデジタルまたは DTS ソフトの再生ができない（本機のフロントパネルディスプレイの DD DIGITAL または DTS インジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」および「ドルビーデジタルまたは DTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	30
低音の再生不良	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CROSSOVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	50
	セットメニュー「SPEAKER SET」の設定が実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	48
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	10 ～ 19
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
	セットメニュー「MAX VOL.」で小さい音量が設定されている	大きい音量を設定してください。	53
有線放送などでエフェクトチャンネル（センター、サラウンド左／右）の音がノイズになる。	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないで再生してください。	–
サラウンドと音場効果をかけた音を録音できない	サラウンド効果と音場効果をかけた音は録音できません。		–

症状	原因	対策	参照ページ
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	12 ～ 18
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTS および AAC などのデジタルデータを録音できません。		–
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	12 ～ 19
音場パラメーターやセットメニュー、SCENE テンプレートの設定を変更できない	セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	57
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう 1 度差し込んでください。	–
HDMI 接続した機器の音声が出力されない。	HDMI 機器がマルチチャンネル信号に対応していない。	HDMI 機器側の設定でマルチチャンネル信号を2チャンネル信号に変換してください。	–
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートを起こしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	10
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴くと、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源をオンにしてください。	21
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	–

FM ／ AM 放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	**ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい**	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	20
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	39
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	20
	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	39
AM	**オート選局ができない**	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	20
			マニュアル選局をしてください。	39
	オートプリセットができない	AM 放送局はオートプリセットができません。	マニュアルプリセットをしてください。	40
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	–
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機がリモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、30° 以内の範囲で操作してください。	23
	操作のはじめに④**AMP** キーが押されていない。	④**AMP** キーを押してください。	–
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	「スタートアップガイド」3
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器の入力選択キーが押されていない。	入力選択キーを押してください。	29
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	61
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードを設定しても操作できない機器は、その機器に付属のリモコンをお使いください。	–

iPod

ご注意

フロントパネルディスプレイやモニター画面に下記のメッセージが表示されない場合は、iPod の接続をご確認ください（19 ページ）。

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPod との接続を確認中です。		–
	iPod から情報を取得中です。		
Connect error	iPod との通信に問題が発生しています。	本機の電源をスタンバイにし、ヤマハ製 iPod 用ドックを接続し直してください。	19
		iPod をヤマハ製 iPod 用ドックにセットし直してください。	–
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。	本機は iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod mini に対応しています。	–
iPod connected	iPod がヤマハ製 iPod 用ドックに正しく接続されました。		–
Disconnected	iPod がヤマハ製 iPod 用ドックから取り外されました。	iPod をヤマハ製 iPod 用ドックに接続してください。	19
Unable to play	何らかの原因で再生できません。	iPod に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	–
		再生可能な曲を iPod に保存してください。	–

Bluetooth

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと、Bluetooth 機器がペアリングしています。		–
	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと、Bluetooth 機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングがキャンセルされました。		
BT connected	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと、Bluetooth 機器の接続が確立しました。		
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth アダプターと、Bluetooth 機器の接続が切断されました。		
No BT Adapter	ヤマハ製 Bluetooth アダプターが本機の DOCK 端子に接続されていません。	本機の DOCK 端子にヤマハ製 Bluetooth アダプターを接続してください。	19

AUTO SETUP

■ 測定開始時の表示

表示	内容	対策	参照ページ
Connect MIC!	オプティマイザーマイクが接続されていません。	オプティマイザーマイクをフロントパネルのOPTIMIZER MIC端子に接続してください。	「スタートアップガイド」9
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。	―

■ 測定中の表示

エラーメッセージ	原因	対策	参照ページ
E-1:NO FRONT SP	フロント左／右チャンネル信号が検出されませんでした。	フロント左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	10
E-2:NO SUR.SP	サラウンド左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	10
E-4:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。	―
		エアコンなど、騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、オプティマイザーマイクから遠ざけてみてください。	―
E-6:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	AUTO SETUPでの測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。	「スタートアップガイド」9
E-7:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。	「スタートアップガイド」9
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。	10
E-8:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定が中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。	「スタートアップガイド」9
E-9:INTERNAL ERROR	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。	「スタートアップガイド」9

■ 測定後の表示

警告メッセージ	原因	対策	参照ページ
W-1:OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。正しく接続されている場合は、このメッセージが表示されても正常に使用できます。	10
W-2:OVER 24m (80ft)	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が24mよりも離れているため、補正できません。	視聴位置の 24m 以内にスピーカーを移動してください。	–
W-3:LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。	–
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。	10
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。	–
		「SWFR:TOO LOUD」、または「SWFR:TOO LOW」が表示された場合、サブウーファーの音量を調節してください。	–

ご注意

- エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合、発生している問題を解決してから AUTO SETUP をやり直してください（「スタートアップガイド」9 ページ）。
- 「W-1」、「W-2」、「W-3」が表示された場合、補正はされますが、最適ではありません。
- 「E-9」が繰り返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

■ すべての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場パラメーター、プリセットした FM ／ AM 放送局などをすべて初期設定に戻します。

1 本体のⒶSTANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

2 ⓂTONE CONTROL キーを押しながら、もう一度 ⒶSTANDBY/ON キーを押す

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにアドバンストセットアップメニューが表示されます。

3 ⓃPROGRAM ◁ / ▷ キーを押して、「INIT.」を選ぶ。

4 ⓅSTRAIGHT キーを繰り返し押して、「RESET」を選ぶ。



初期設定に戻さない場合は、「CANCEL」を選んでください。

5 ⒶSTANDBY/ON キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

変更した設定が保存されます。

ご注意

- 「SET MENU」の設定を含むすべての設定を初期設定に戻します。ただし、アドバンストセットアップメニューの設定は初期設定に戻りません。
- 次回電源をオンにしたときにすべての設定が初期設定に戻ります。



初期化操作を中止するには、手順 4 で、「CANCEL」を選んでから、ⒶSTANDBY/ON キーを押してください。

用語／技術解説

■ 音場を構成する要素

直接音
楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

初期反射音
壁や天井などに1回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50ms（50／1000秒）から80ms（80／1000秒）くらい後に耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音
壁や天井、部屋の後部などに2回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音が1つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3やAACなど、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子またはD端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号を1つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント左／右チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント３チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド２チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド２チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の５チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。２チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の２チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンド左／右スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド左／右スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント左／右スピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の一つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で７チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ D端子

AV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、１本の専用ケーブルで接続できます。
その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD4ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

■ DTSデジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の６チャンネル（フロント左／右、センター、サラウンド左／右チャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

■ HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、１本のケーブルで伝送できます。

■ LFE（低域効果音）0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の５チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニア PCM）

MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、0.9% THD）
　全チャンネル.......................................105W
実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
　全チャンネル.......................................130W
ダイナミックパワー（IHF）
　6 ／ 4 ／ 2Ω ....100 ／ 110 ／ 125W
入力感度／入力インピーダンス
（1kHz、100W ／ 8Ω 換算）
　CD 他.................................... 200mV ／ 47kΩ
　MULTI CH INPUT .... 200mV ／ 47kΩ
最大許容入力（1kHz）
　CD 他（EFFECT ON、0.5% THD）
　..2.0V 以上
出力電圧／出力インピーダンス
　REC OUT .... 200mV ／ 1.2kΩ
　SUBWOOFER（2ch Stereo、FRONT SP : SMALL）.......................................4V ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／出力インピーダンス
　CD 他（1kHz、200mV 入力、8Ω）
　... 0.4V ／ 470Ω
周波数特性
　CD 他（フロント左／右、10Hz ～ 100kHz）
　...0 ／－ 3dB
全高調波歪率
　CD 他（2ch Stereo、フロント SP OUT、1kHz、50W ／ 6Ω）......................0.06% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　CD 他（EFFECT OFF、250mV、SP OUT）
　...100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント左／右、SP OUT........... 150 μV 以下
チャンネルセパレーション
（入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
　CD 他（5.1kΩ）.........60dB 以上／ 45dB 以上
トーンコントロール特性
　BASS（可変幅)..................± 10dB ／ 100Hz
　TREBLE（可変幅）...............± 10dB ／ 20kHz
フィルタ特性（fc=40 ／ 60 ／ 80 ／ 90 ／ 100 ／ 110 ／ 120 ／ 160 ／ 200Hz）
　H.P.F.（可変クロスオーバー）
　　（フロント、センター、サラウンド：SMALL）
　　... 12dB ／ oct.
　L.P.F.（可変クロスオーバー）
　　（サブウーファー）........................24dB ／ oct.

ビデオ部

ビデオ信号方式
　グレーバック ....NTSC
コンポジットビデオ信号レベル ..... 1Vp-p ／ 75Ω
D4 ビデオ信号レベル
　Y... 1Vp-p ／ 75Ω
　Pb、Pr.................................... 0.7Vp-p ／ 75Ω
ビデオ最大許容入力（VIDEO CONV. OFF）
　... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比..50dB 以上
モニターアウト周波数帯域（VIDEO CONV. OFF）
　D4 ビデオ
　.................................... 5Hz ～ 60MHz、－ 3dB

FM チューナー部

受信周波数範囲 .... 76.0MHz ～ 90.0MHz
50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
　モノ ....2.8 μV（20.2dBf）
S ／ N 比（IHF）
　モノ／ステレオ .... 73dB ／ 70dB
歪率（1kHz）
　モノ／ステレオ .... 0.5%／ 0.5%
アンテナ入力..........................75Ω、アンバランス

AM チューナー部

受信周波数..........................531kHz ～ 1611kHz

総合

電源電圧...........................AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力...180W
待機時消費電力 0.8W
寸法（幅×高さ×奥行き）
　.. 435 × 151 × 352mm
質量..8.5kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

N

P

R

S

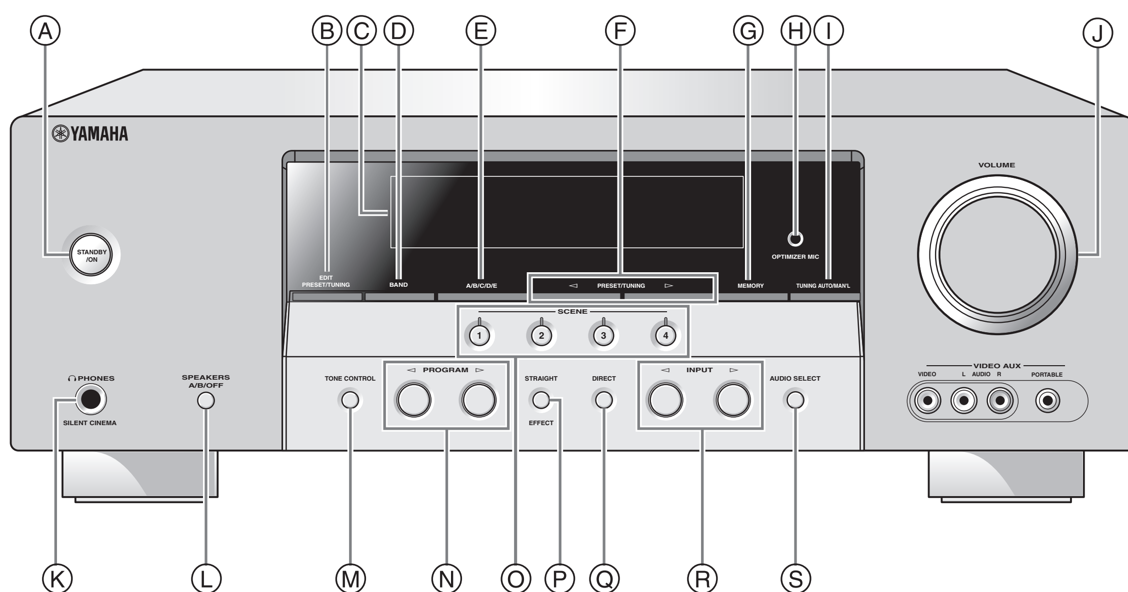
V

W

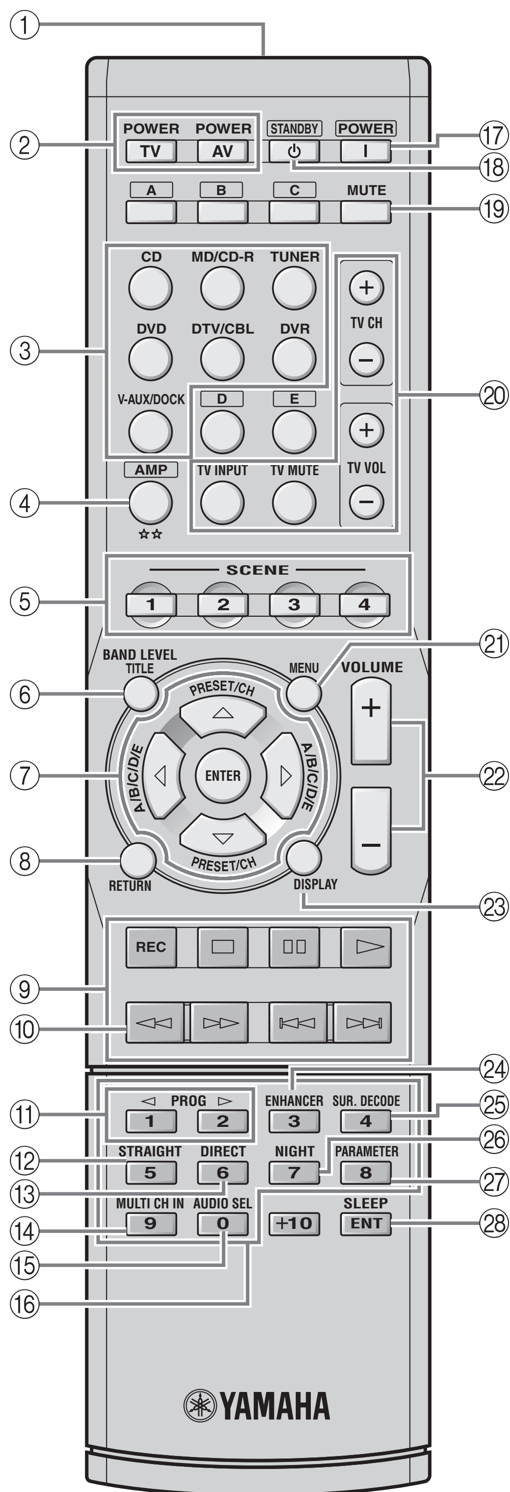
Y

付録

■ フロントパネル（前面）


A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
YAMAHA
STANDBY /ON
EDIT
PRESET/TUNING
BAND
A/B/C/D/E
PRESET/TUNING
MEMORY
OPTIMIZER MIC
TUNING AUTO/MAN'L
VOLUME
SCENE
1
2
3
4
PHONES
SILENT CINEMA
SPEAKERS A/B/OFF
TONE CONTROL
PROGRAM
STRAIGHT
EFFECT
DIRECT
INPUT
AUDIO SELECT
VIDEO AUX
VIDEO
L AUDIO R
PORTABLE
K
L
M
N
O
P
Q
R
S

■ リモコン



POWER
TV
POWER
AV
STANDBY
POWER
A
B
C
MUTE
CD
MD/CD-R
TUNER
DVD
DTV/CBL
DVR
V-AUX/DOCK
D
E
TV CH
TV VOL
AMP
TV INPUT
TV MUTE
SCENE
1
2
3
4
BAND LEVEL
TITLE
MENU
VOLUME
PRESET/CH
A/B/C/D/E
ENTER
RETURN
DISPLAY
REC
PROG
1
2
ENHANCER
3
SUR. DECODE
4
STRAIGHT
5
DIRECT
6
NIGHT
7
PARAMETER
8
MULTI CH IN
9
AUDIO SEL
0
+10
SLEEP
ENT
YAMAHA
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘

■　入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意

AUTO SETUP（「スタートアップガイド」9ページ）、またはセットメニュー「SPEAKER SET」（48ページ）の設定により、音声が出力されるスピーカーは変化します。また、再生するソースによってはスピーカーから音が出ない場合や、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音などに合わせて部分的にしか使われないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を示しています。

L：　フロント左スピーカー
C：　センタースピーカー
R：　フロント右スピーカー
SL：　サラウンド左スピーカー
SR：　サラウンド右スピーカー

■：　音が出ているスピーカー

□：　音が出ていないスピーカー

音場プログラム	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1 チャンネル音声
STEREO 2ch Stereo MUSIC ENHANCER 2ch Enhancer	□C ■L ■R □SL □SR モノラル再生	□C ■L ■R □SL □SR	□C ■L ■R □SL □SR
STEREO 5ch Stereo MUSIC ENHANCER 5ch Enhancer	■C ■L ■R ■SL ■SR	■C ■L ■R ■SL ■SR	■C ■L ■R ■SL ■SR
MUSIC Hall Jazz	□C ■L ■R ■SL ■SR	□C ■L ■R ■SL ■SR	■C ■L ■R ■SL ■SR
MUSIC Pop/Rock ENTERTAINMENT Game TV Sports	■C ■L ■R ■SL ■SR	■C ■L ■R ■SL ■SR	■C ■L ■R ■SL ■SR

音場プログラム	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1 チャンネル音声
MOVIE Movie Spacious Movie Dramatic			
SUR. DECODE DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC	
SUR. DECODE PLII Movie PLII Music PLII Game			—
STRAIGHT	モノラル再生		
DIRECT	モノラル再生		

付録

リモコンコード一覧

ブルーレイディスクプレーヤー

Samsung	2137

CD プレーヤー

Yamaha	5000, 5013

CD レコーダー

Yamaha	5001

DVD プレーヤー

Denon	2030, 2102, 2103
Hitachi	2032, 2072
JVC/Victor	2033, 2045, 2053, 2073, 2099
Kenwood	2030, 2097
LG	2084, 2087
Mitsubishi	2035
Onkyo	2073, 2135
Panasonic	2030, 2040, 2054, 2057, 2105, 2110
Philips	2019, 2026, 2046, 2073, 2081, 2090
Pioneer	2036, 2082
Samsung	2032, 2041, 2104, 2113
Sanyo	2095
Sharp	2034, 2043, 2059, 2093, 2106
Sony	2028, 2029, 2039, 2083, 2107
Teac	2074
Toshiba	2026, 2044, 2048, 2056, 2073, 2108, 2111
Yamada	2077
Yamaha	2000, 2001, 2003, 2030, 2101

DVD レコーダー / HDD レコーダー

Hitachi	2008
JVC/Victor	2070, 2126, 2127
LG	2071
Panasonic	2015, 2016, 2017, 2020, 2065, 2066, 2067, 2120
Philips	2019, 2061, 2062, 2063, 2117, 2121, 2123, 2128
Pioneer	2012, 2013, 2014, 2021, 2114
Sharp	2009, 2010
Sony	2005, 2006, 2007, 2022, 2064, 2122, 2130, 2131, 2132
Samsung	2115
Toshiba	2004, 2068, 2125, 2132
Yamaha	2011, 2023

DVD プレーヤー / ビデオデッキ

JVC/Victor	1017, 2045
LG	1071, 2087
Panasonic	1020, 1072, 2040, 2105
Philips	1025
Samsung	1021, 2041, 2104
Sharp	1023, 1073, 2043, 2106
Sony	1019, 1074, 2039, 2107
Toshiba	1024, 1075, 2044, 2108

HD DVD プレーヤー

Toshiba	2136

iPod

Yamaha	5011

LD プレーヤー

Yamaha	2002

MD プレーヤー

Yamaha	5002, 5003, 5004

カセットデッキ

Yamaha	5005, 5006

チューナー

Yamaha	5007, 5008, 5009, 5010, 5012, 5014, 5015, 5016, 5017, 5018

テレビ

Fujitsu	0023, 0024, 0025, 0088, 0127
Funai	0033, 0034, 0035, 0036, 0037, 0062, 0206
Hitachi	0006, 0014, 0015, 0016, 0042, 0060, 0061, 0095, 0105, 0127, 0156, 0179, 0180, 0204, 0207, 0210, 0211, 0215, 0216, 0251
JVC/Victor	0017, 0018, 0019, 0108, 0136, 0153, 0178, 0190, 0213, 0218
LG	0016, 0038, 0039, 0127, 0128, 0157, 0158, 0163, 0164, 0166, 0188, 0189, 0200, 0201, 0207, 0208, 0210, 0213, 0214, 0215, 0217
Mitsubishi	0006, 0015, 0016, 0048, 0060, 0061, 0104, 0112, 0113, 0125, 0205, 0213
NEC	0026, 0053, 0060, 0061, 0096, 0127
Panasonic	0006, 0007, 0063, 0073, 0074, 0097, 0110, 0114, 0137, 0141, 0151, 0162, 0165, 0186, 0204, 0211, 0244, 0245, 0246, 0254
Philips	0040, 0060, 0063, 0072, 0115, 0116, 0124, 0130, 0150, 0175, 0184, 0187, 0205, 0207, 0213, 0215, 0217, 0220, 0221, 0232, 0233, 0252, 0253
Pioneer	0012, 0013, 0060, 0061, 0098, 0109, 0117, 0128, 0181, 0182, 0194, 0195, 0211, 0213, 0216, 0217, 0250
Samsung	0029, 0030, 0031, 0032, 0044, 0045, 0046, 0047, 0060, 0061, 0065, 0068, 0069, 0071, 0079, 0087, 0127, 0128, 0130, 0144, 0160, 0161, 0170, 0176, 0183, 0185, 0200, 0201, 0206, 0207, 0208, 0213, 0217, 0239, 0241, 0242, 0243
Sanyo	0020, 0021, 0022, 0049, 0060, 0064, 0127, 0128, 0200, 0203, 0207, 0215
Sharp	0009, 0010, 0011, 0060, 0061, 0066, 0070, 0087, 0111, 0143, 0145, 0167, 0168, 0169, 0198, 0204, 0224, 0247, 0248, 0249
Sony	0041, 0059, 0067, 0085, 0086, 0174, 0196, 0199, 0208, 0219, 0234
Toshiba	0027, 0043, 0053, 0054, 0064, 0078, 0089, 0090, 0106, 0107, 0127, 0131, 0140, 0146, 0159, 0197, 0225, 0231, 0237
Yamaha	0000, 0001, 0002, 0003, 0004, 0005, 0060, 0061

テレビ / ビデオデッキ

Hitachi	0156, 1039
JVC/Victor	0153, 1036
Panasonic	0151, 1034
Philips	0150, 0232, 0233, 1033, 1062, 1063
Samsung	0144, 0239, 1027, 1068
Sharp	0145, 1028
Sony	0234, 1064
Toshiba	0146, 0237, 1029, 1066

ビデオデッキ

Funai	1005, 1042
Hitachi	1007, 1010, 1039, 1042, 1043, 1046, 1049
JVC/Victor	1000, 1001, 1007, 1011, 1017, 1036, 1043
LG	1003, 1042, 1045, 1071
Mitsubishi	1011, 1042, 1046
Panasonic	1004, 1020, 1034, 1040, 1048, 1054, 1072
Philips	1004, 1025, 1033, 1046, 1056, 1057, 1059, 1062, 1063
Pioneer	1011, 1046
Samsung	1002, 1014, 1021, 1027, 1052, 1068, 1070
Sanyo	1001, 1002, 1014, 1047
Sharp	1008, 1023, 1028, 1053, 1073
Sony	1016, 1019, 1055, 1060, 1064, 1074
Toshiba	1013, 1024, 1029, 1043, 1046, 1066, 1075
Yamaha	1000, 1001, 1007

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1





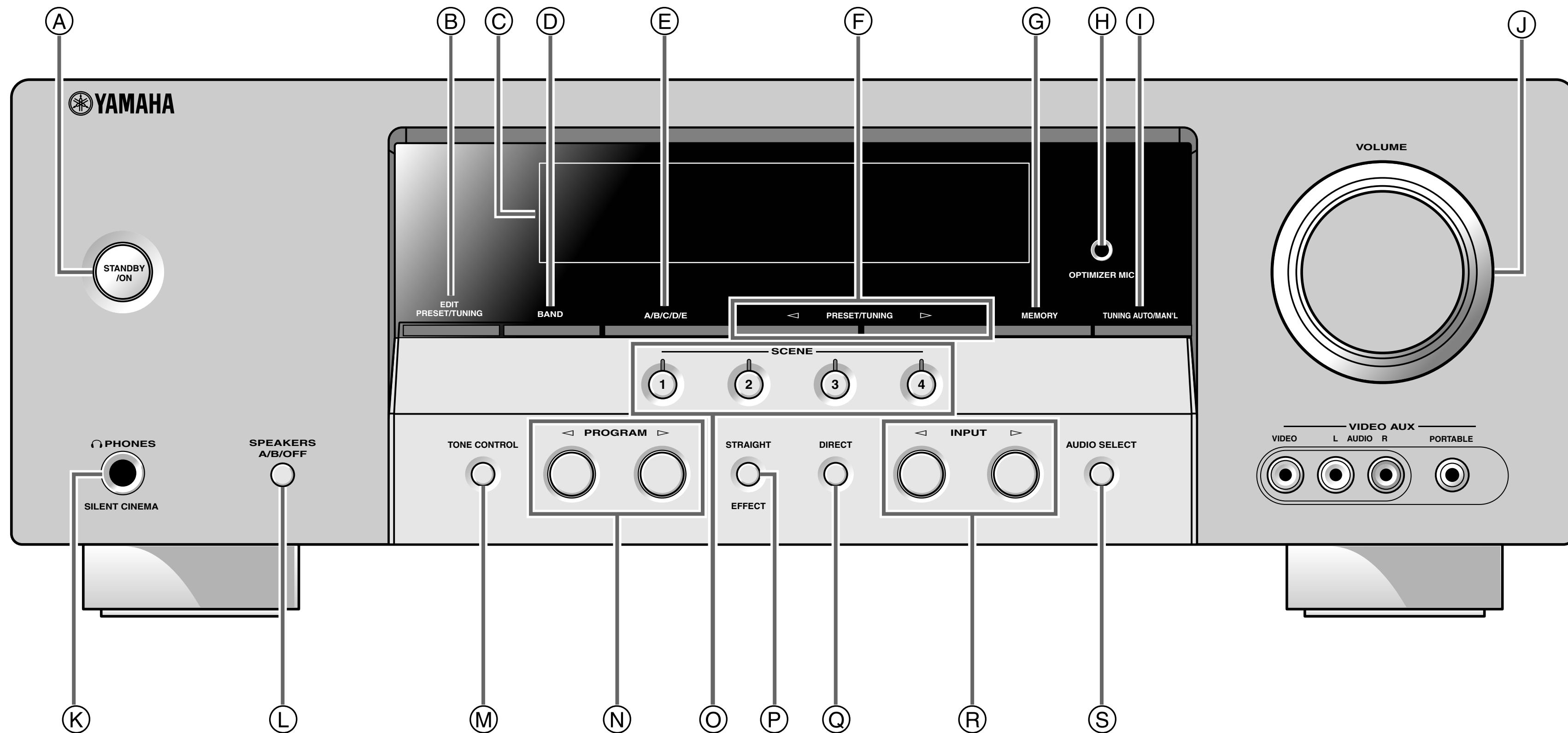
ヤマハ株式会社

Printed in China WN25760

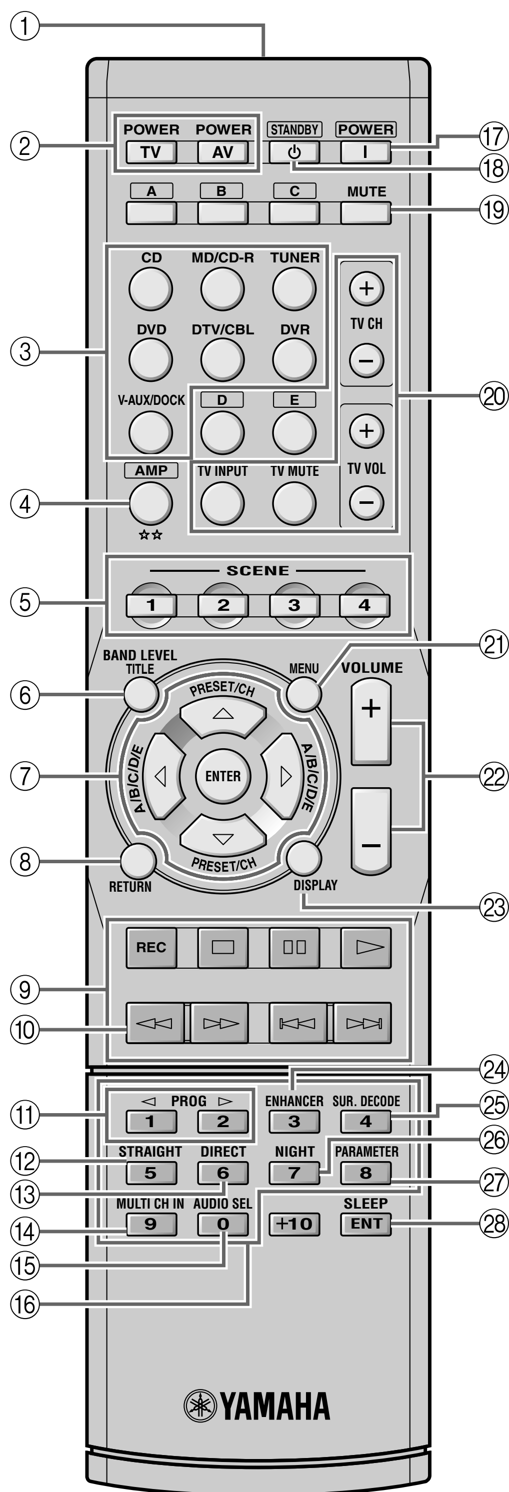
DSP-AX463 操作パネル図

イラストに記載されている数字やアルファベットは、取扱説明書中のキーなどに付記されている数字やアルファベットに対応しています。

■ フロントパネル



■ リモコン





YAMAHA CORPORATION
Printed in China WN26210